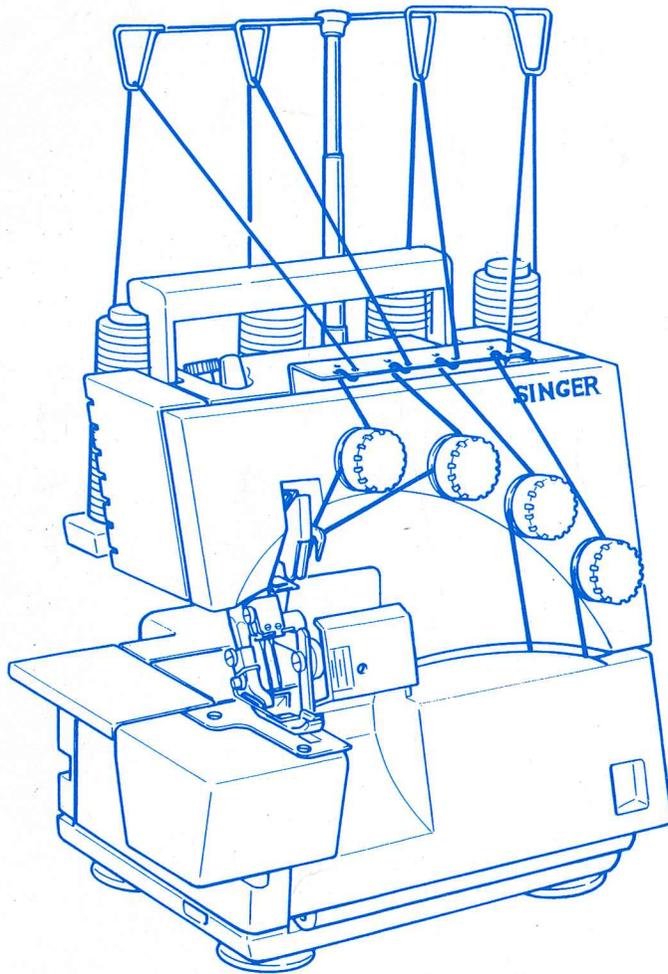


# 14 U344B/354B

3・4本糸

縁かがりミシン  
使用の手びき



**SINGER**<sup>\*</sup>  
シンガーミシン

# PROFESSIONAL 14<sub>U</sub>型

## 縁かがりミシンの紹介

このたび、シンガー14U型ロックミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。  
このミシンは、あらゆる布地にすぐれた機能を発揮いたします。この説明書をよくお読み  
いただき、正しく、かつ末永くご愛用くださるよう、お願いいたします。

シンガーミシンを安全にお使いいただくために次のことをお守りください。

- ミシンを使用しないときや、停電などによりミシンから離れるときは必ず電源スイッチを切り、コードを差し込み口から抜いておいてください。
- ミシンは直射日光にあてたり、高温多湿の場所には置かないようにしてください。また、とくに低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで作動がスムーズでない場合がありますが時間がたてば正常に作動するようになります。
- ミシンの汚れはベンジンやガソリンを使わずにせっけんまたは中性洗剤などを含ませたやわらかい布でよくふきとってください。
- 裁縫をするときは手もとをよく見ながら針やメスでケガなどせぬようご注意ください。

シンガー社は皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの  
外観、デザイン又は付属品を変更することがあります。

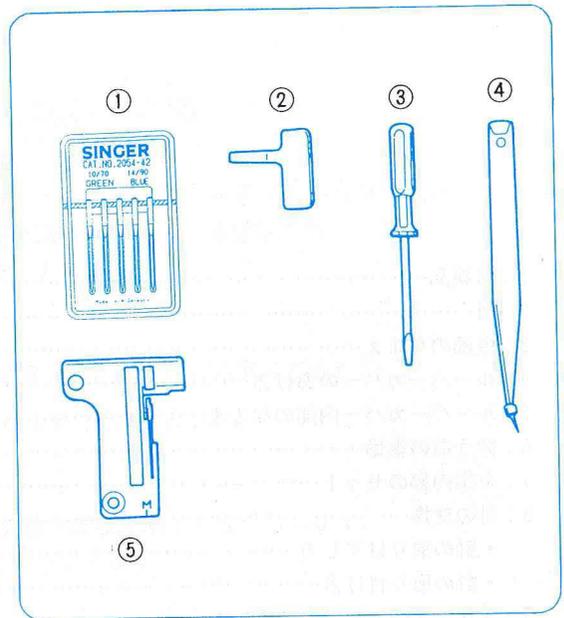
# 目 次

ページ	ページ
1. 付属品.....	2
2. 針.....	2
3. 各部のなまえ.....	3
4. ルーパーカバーのあけ方.....	4
5. ルーパーカバー内部のなまえ.....	4
6. 縫う前の準備.....	4
7. 糸案内棒のセット.....	5
8. 針の交換.....	6
• 針の取りはずし方.....	6
• 針の取り付け方.....	6
9. シリンダーカバーのはずし方.....	7
• シリンダーカバーの取り付け方.....	7
10. 糸の正しい通し方.....	8
(1)右ルーパーの糸通し.....	8
(2)左ルーパーの糸通し.....	10
(3)右針の糸通し.....	12
(4)左針の糸通し.....	14
• 左ルーパー糸が切れた時の正しい糸の通し方.....	15
11. 糸からみの確認と試し縫い.....	16
12. 基本ステッチの種類.....	17
• 2本針4本糸オーバーロック.....	17
• 1本針3本糸オーバーロック.....	17
13. 正しい糸調子のとり方.....	17
• 2本針4本糸オーバーロック.....	18
(1)ダイヤルのセット.....	18
(2)正しい糸調子.....	18
(3)糸調子がこんなときは.....	18
• 1本針3本糸オーバーロック.....	19
(1)ダイヤルのセット.....	19
(2)正しい糸調子.....	19
(3)糸調子がこんなときは.....	19
14. 糸の交換.....	20
15. 縫い目長さの調節.....	21
16. 上メスの解除.....	21
• 上メスの解除のしかた.....	21
• 上メスを布の切れる位置に戻すには.....	22
17. ガイドラインの使い方.....	22
18. かがり幅の調節.....	23
• 針の取り付け位置による調節.....	23
• かがり幅調節つまみによる調節.....	23
19. 巻きロック.....	24
• 布地、針、糸.....	24
• 針板のとりかえ方.....	24
• 標準巻きロック.....	25
(1)正しい糸調子.....	25
(2)ダイヤルのセット.....	25
• 変形巻きロック.....	25
(1)正しい糸調子.....	25
(2)ダイヤルのセット.....	25
(3)糸調子がこんなときには.....	25
• 縫い方.....	26
20. 応用縫い.....	27
• 飾りステッチ.....	27
• まつり縫い.....	29
• ピンタック縫い.....	29
• 角縫い.....	30
(1)外角縫い.....	30
(2)内角縫い.....	31
• ピンをさす場所.....	31
• 糸端のしまつ.....	31
• ゴムひも付け縫い.....	32
• テープ付け縁かがり縫い.....	33
• 空環ブレード.....	33
• 差動送り縫い(差動送り付きミシン専用).....	34
(1)ギャザーロック.....	34
(2)ストレッチロック・フリルロック.....	35
21. 押え圧力の調節.....	36
22. フリーアーム縫い(筒もの縫い).....	36
23. 針と糸と布地の関係.....	37
24. ミシンの手入れ(掃除と注油).....	38
• 掃除.....	38
• 注油.....	38
25. メスの交換.....	38
26. 電球の取りかえ方.....	39
27. ミシンの調子の悪い原因と調整のしかた.....	40
28. 別売り品.....	41
29. ミシンの仕様.....	43

## 1. 付属品

- ① 針のセット (Cat No.2054-42) 1  
(10番-2本、14番-3本)
- ② ドライバー (板金) 1
- ③ ドライバー (小) 1
- ④ ピンセット 1
- ⑤ 巻きロック用針板 1

別売りの部品については、41ページを参照してください。



## 2. 針

\*このオーバーロックミシンには、フラットシャングの工業用ミシン針を使用しますので、家庭用ミシン針は使用できません。

Cat.No.  
2054  
工業用ミシン針  
(オーバーロック用)

~~Cat.No.  
2045  
家庭用ミシン針~~

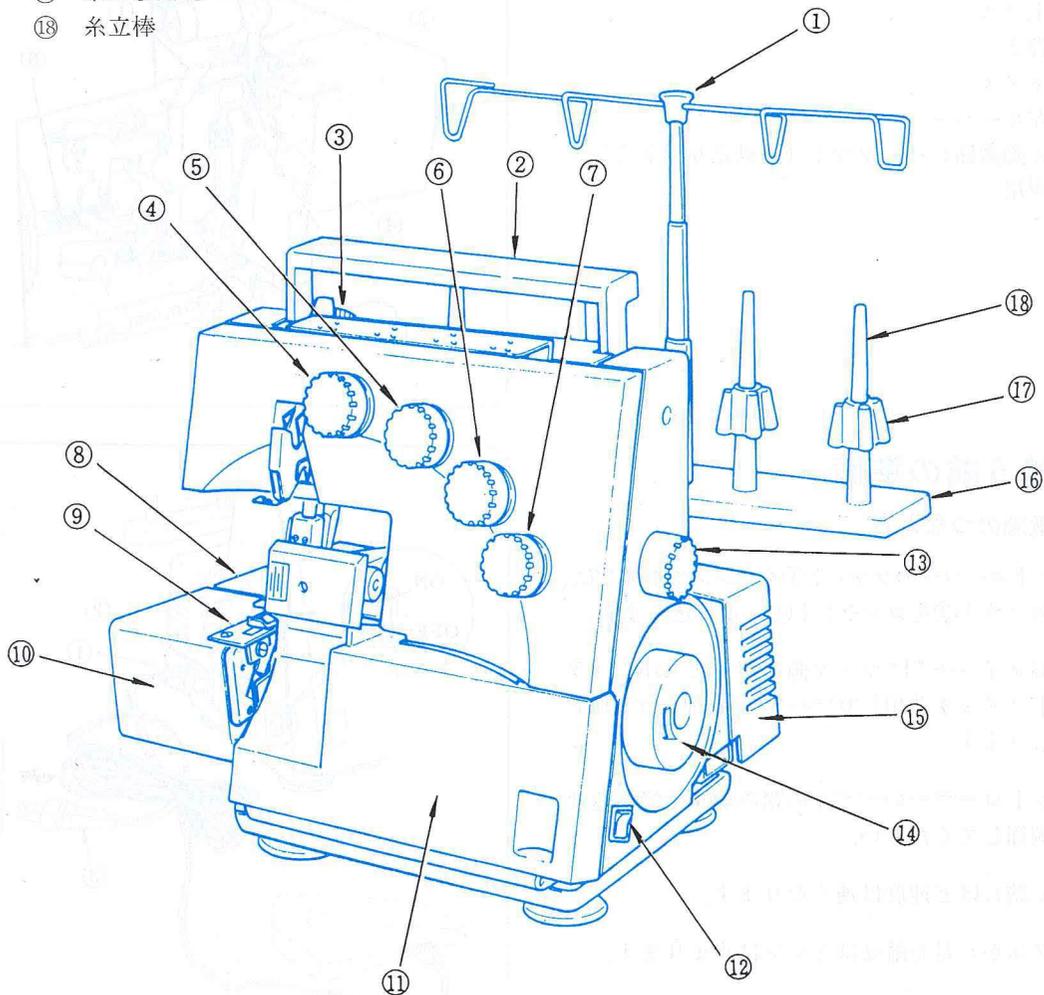
\*針はシンガー針 Cat.No.2054をご使用ください。  
織地用、レギュラーポイント針 (Cat.No.2054-42)  
及びニット地用、ボールポイント針 (Cat.No.2054-06) の10、12、14、16番のものが入手可能です。

\*裁縫により適切な針を選ぶため、37ページの針と糸と布地の関係を参照してください。

	普通地用 Cat.No.2054-42	ニット地用 Cat.No.2054-06
針のサイズ	10 12 14 16	10 12 14 16

### 3. 各部のなまえ

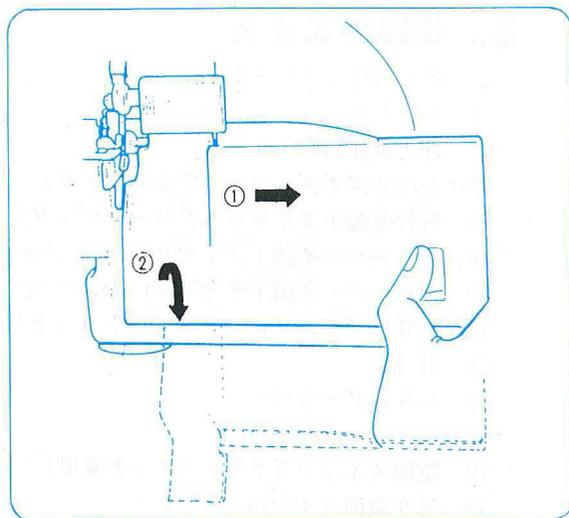
- ① 糸案内棒 (アンテナ)
- ② ハンドル
- ③ 押え調節ねじ
- ④ 左針糸調子ダイヤル (ブルーマーク)
- ⑤ 右針糸調子ダイヤル (グリーンマーク)
- ⑥ 右ルーパー糸調子ダイヤル (オレンジマーク)
- ⑦ 左ルーパー糸調子ダイヤル (イエローマーク)
- ⑧ フリーアームプレート (ベッドリッド)
- ⑨ 針板
- ⑩ シリンダーカバー
- ⑪ ルーパーカバー
- ⑫ 電源スイッチ (ライトスイッチ兼用)
- ⑬ 送り調節ダイヤル
- ⑭ はずみ車
- ⑮ モーターカバー
- ⑯ 糸立台
- ⑰ 糸ごま支え
- ⑱ 糸立棒



## 4. ルーパーカバーのあけ方

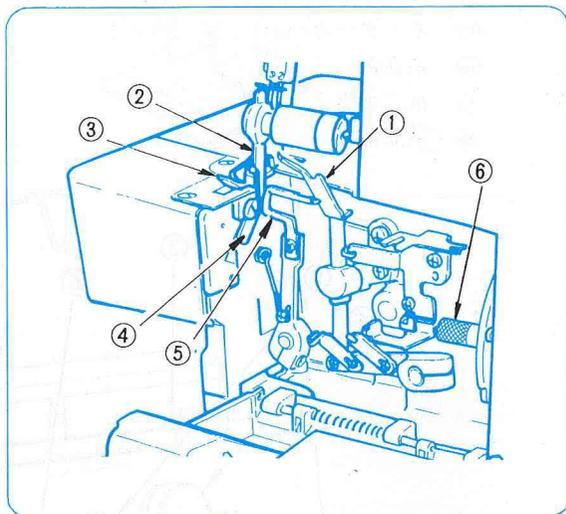
- \*① 右へいっぱい寄せて
- \*② 手前に倒します。

注) ミシンを使用するときは、必ずルーパーカバーを閉じておいてください。



## 5. ルーパーカバー内部のなまえ

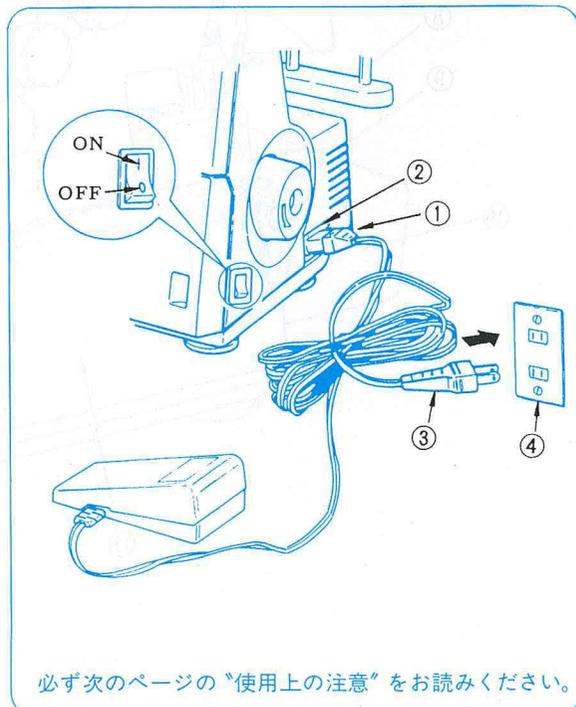
- ① 右ルーパー
- ② 上メス
- ③ 押え
- ④ 下メス
- ⑤ 左ルーパー
- ⑥ 差動調節レバーツマミ (差動送り付きミシン専用)



## 6. 縫う前の準備

### 電源のつなぎ方

- \* コントローラーのソケット①をミシンの本体②に、電源プラグ③をコンセント④に差し込みます。
- \* 電源スイッチ「I」マーク側を押せば「ON」(ライトスイッチ兼用)「0」マーク側を押せば「OFF」になります。
- \* コントローラーのペダルの踏み加減で縫い速度を調節してください。
- \* 強く踏むほど速度は速くなります。
- \* ペダルから足を離せばミシンは止まります。



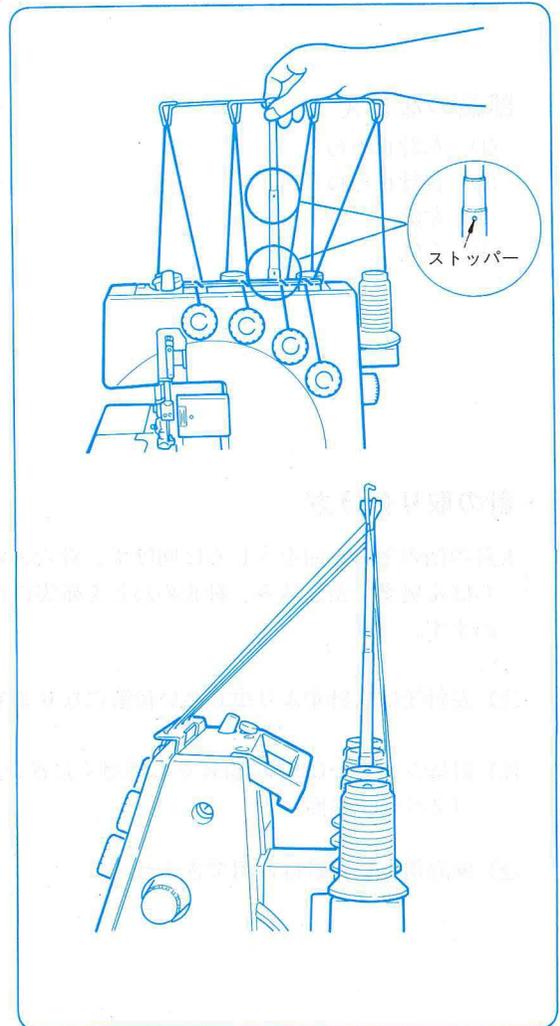
必ず次のページの「使用上の注意」をお読みください。

## 使用上の注意

- \* 付属のシンガーミシン専用コントローラーは落としたり、上に物をのせたりしないよう、ていねいにお取り扱いください。
- \* 針、押え、針板等を交換するときは、安全のため電源スイッチを切ってください。
- \* ミシンを使用しない時は、必ず電源スイッチを切り、また電源プラグもコンセントからはずしておいてください。

## 7. 糸案内棒(アンテナ)のセット

- \* 糸案内棒をいっぱい伸ばし、2ヶ所のストッパーが「カチッ」とかみ合うまで回します。
- \* 糸は糸立棒に差し込んでください。



注) ミシンに糸を通す場合は、からまないように糸をまっすぐにご覧ください。

## 8. 針の交換

### ・針の取りはずし方

(安全のため電源スイッチを切ってください。)

\*はずみ車を手前に回し、針をいちばん上まで上げ、針止めねじをドライバー(小)でゆるめ(外さないこと)、針を取り外します。

### 部品のなまえ

- ① 左針止めねじ
- ② 右針止めねじ
- ③ 左針
- ④ 右針

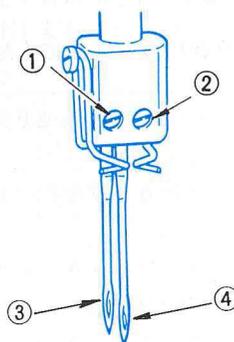
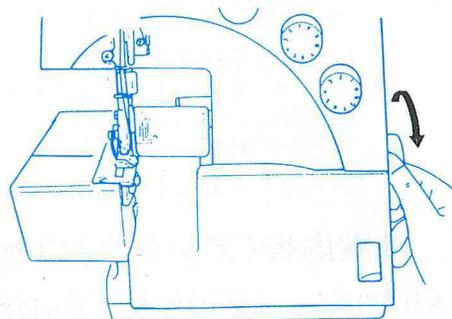
### ・針の取り付け方

\*針の柄の平らな面をうしろに向けて、針穴のいちばん奥まで差し込み、針止めねじを確実に締めます。

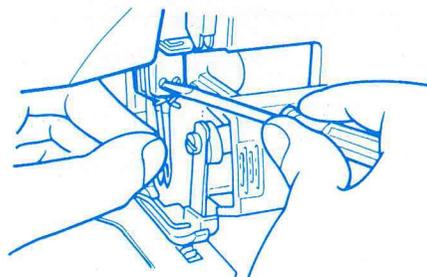
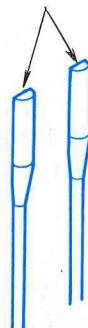
注) 左針③は右針④より少し高い位置になります。

注) 針はシンガーCat.No.2054をご使用ください。  
(2ページ参照)

注) 家庭用ミシン針は使用できません。

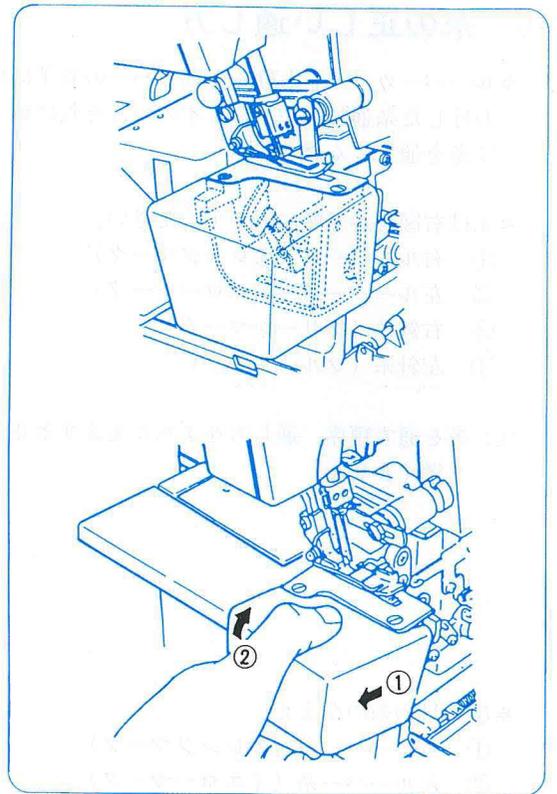


平らな面をうしろ側にします



## 9. シリンダーカバーのはずし方

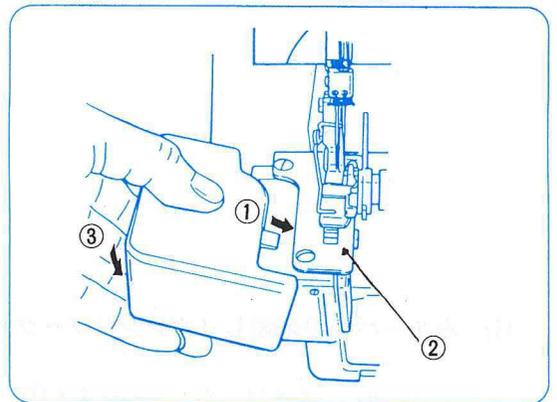
- \* 左ルーバーに糸を通す時および掃除をする時にはずしてください。
- \* ① シリンダーカバーを左へ引きながら
- ② 上にあげるとはずれます。



### ・シリンダーカバーの取り付け方

- \* ① シリンダーカバー上部のツメを
- ② 針板の下に入れ
- ③ 右に押しつけるようにして下げます。

注) ミシンを移動するときは、シリンダーカバーの部分を持たないで、ハンドルを持ってください。



## 10. 糸の正しい通し方

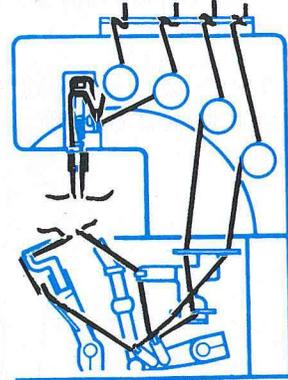
\* ルーパーカバーをあけると前カバーの右下に色わけした糸通し図がありますので、それに従って糸を通してください。

\* 糸は右図の番号順に通してください。

- ① 右ルーパー糸 (オレンジマーク)
- ② 左ルーパー糸 (イエローマーク)
- ③ 右針糸 (グリーンマーク)
- ④ 左針糸 (ブルーマーク)

注) 糸を通す順序、通し方をまちがえますと正しく縫えません。

糸通し順 ④ ③ ① ②



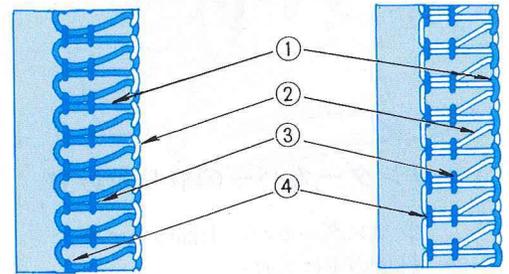
4本糸

3本糸



\* 縫い目の糸のなまえ

- ① 右ルーパー糸 (オレンジマーク)
- ② 左ルーパー糸 (イエローマーク)
- ③ 右針糸 (グリーンマーク)
- ④ 左針糸 (ブルーマーク)

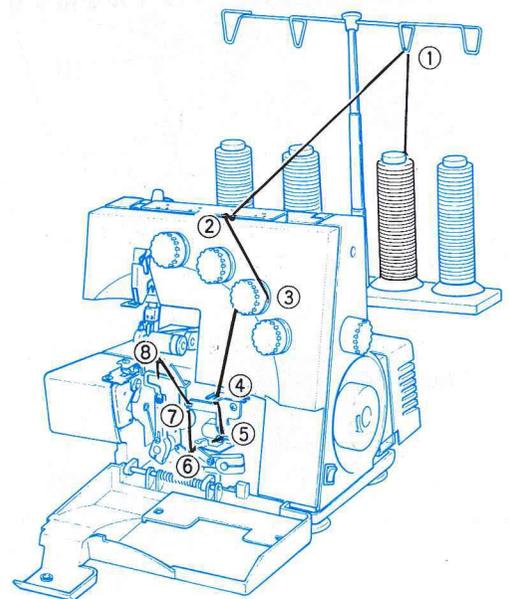


表

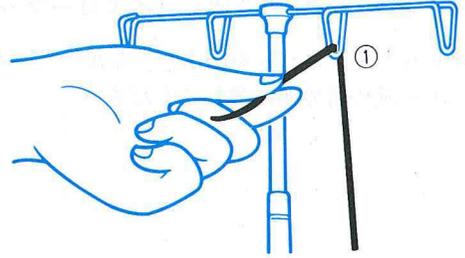
裏

### (1) 右ルーパーの糸通し (オレンジマーク)

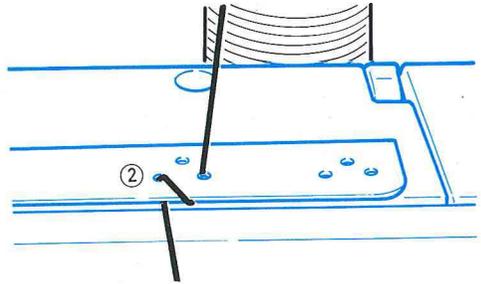
\* ルーパーカバーをあけ、右ルーパー糸を①～⑧の番号順に通してください。



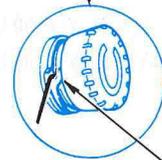
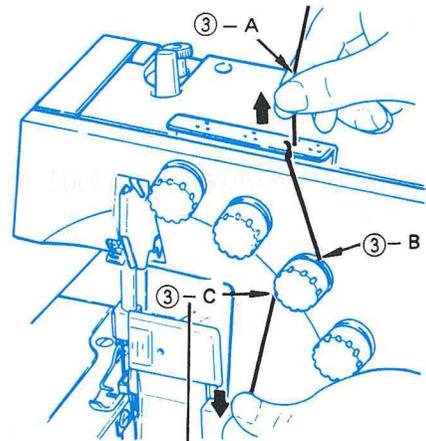
\* 糸掛け①の後ろから手前に糸を通します。



\* 糸案内板②の右の穴に糸を通し、糸を手前から引上げて、左の穴の上から通します。



\* 糸調子皿の上で糸を保持し (③-A)、糸調子皿に糸をかけ (③-B) 糸を糸掛けツメ (③-C) の上まで持ち上げたあと、糸を引き下げて糸調子皿の間に糸が正しくかけられているかどうか確かめます。



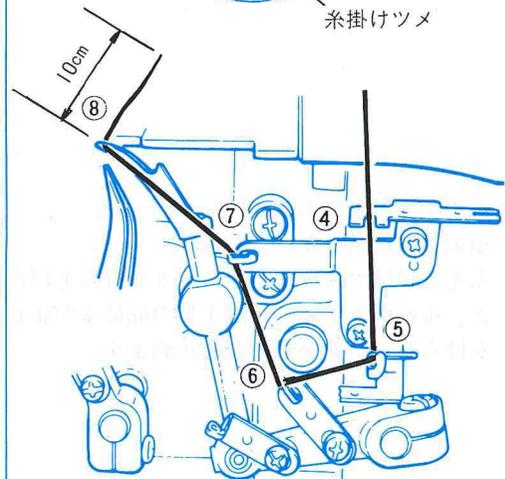
糸掛けツメ

\* ④～⑦までオレンジマークに従って糸を通します。

\* 右ルーパー糸穴⑧には、手前から後ろに糸を通します。

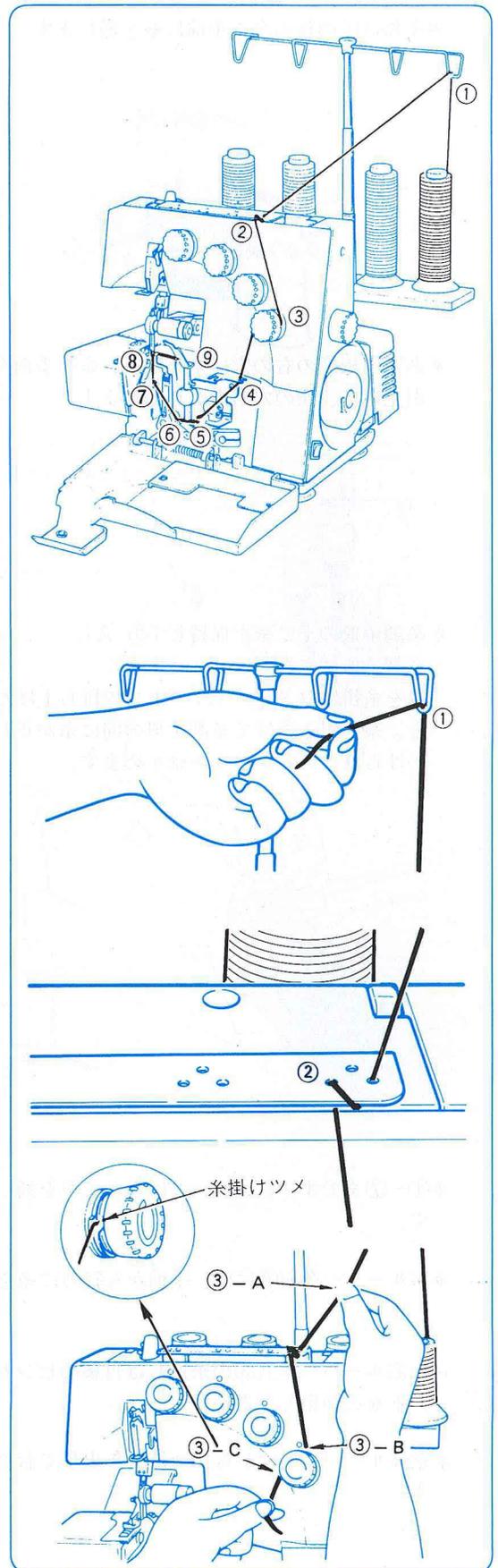
注) 右ルーパー糸穴⑧の糸通しは付属のピンセットをご使用ください。

\* 糸はルーパー糸穴から10cm位引き出しておきます。



## (2) 左ルーパーの糸通し (イエローマーク)

\* シリンダーカバーをはずし、左ルーパー糸を①～⑨の番号順に通してください。



\* 糸掛け①の後ろから手前に糸を通します。

\* 糸案内板②の右の穴に糸を通し、糸を手前から引上げて、左の穴の上から通します。

\* 糸調子皿の上で糸を保持し (③-A)、糸調子皿に糸をかけ (③-B)、糸を糸掛けツメ (③-C) の上まで持ち上げたあと、糸を引き下げて糸調子皿の間に糸が正しくかけられているかどうか確かめます。

\*④～⑥までイエローマークに従って糸を通します。

\*シリンダーカバーを外してください。(7ページ参照)

\*はずみ車を手前に回し、左ルーパーをいちばん左に寄せます。

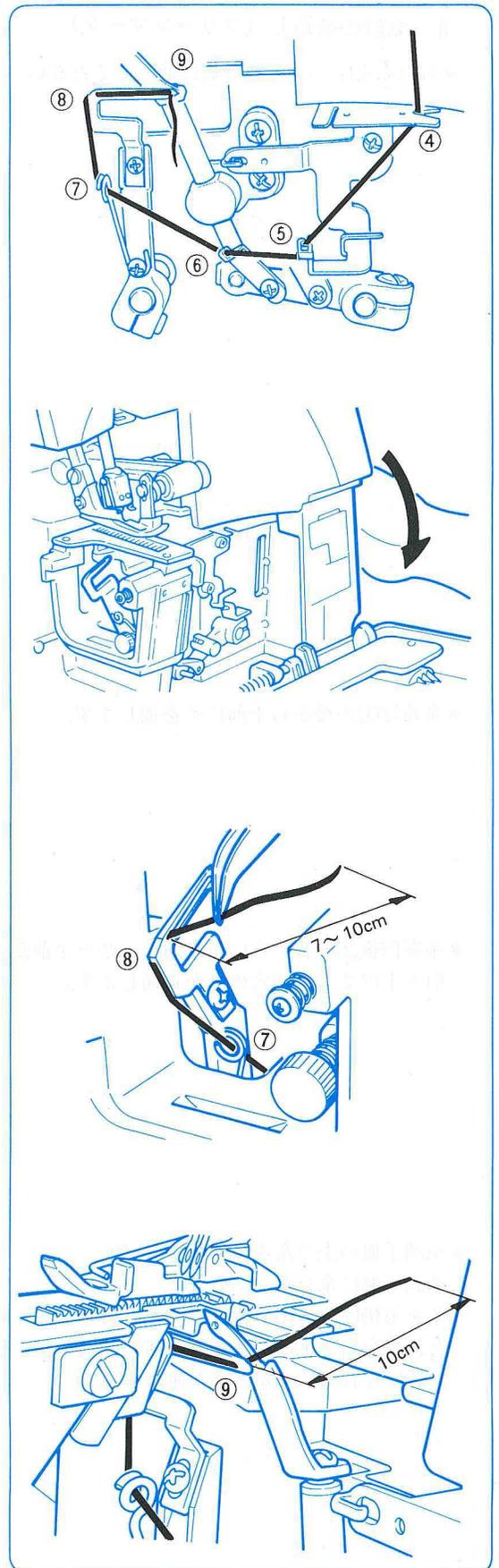
\*糸掛け⑦に糸を通し、左ルーパー糸穴⑧の左側から糸を通します。

\*左ルーパーの糸穴⑧から糸を7～10cm位引き出しておきます。

\*はずみ車を手前に回し、左ルーパーがいちばん右に寄った時左ルーパー糸穴⑨の手前から糸を通します。

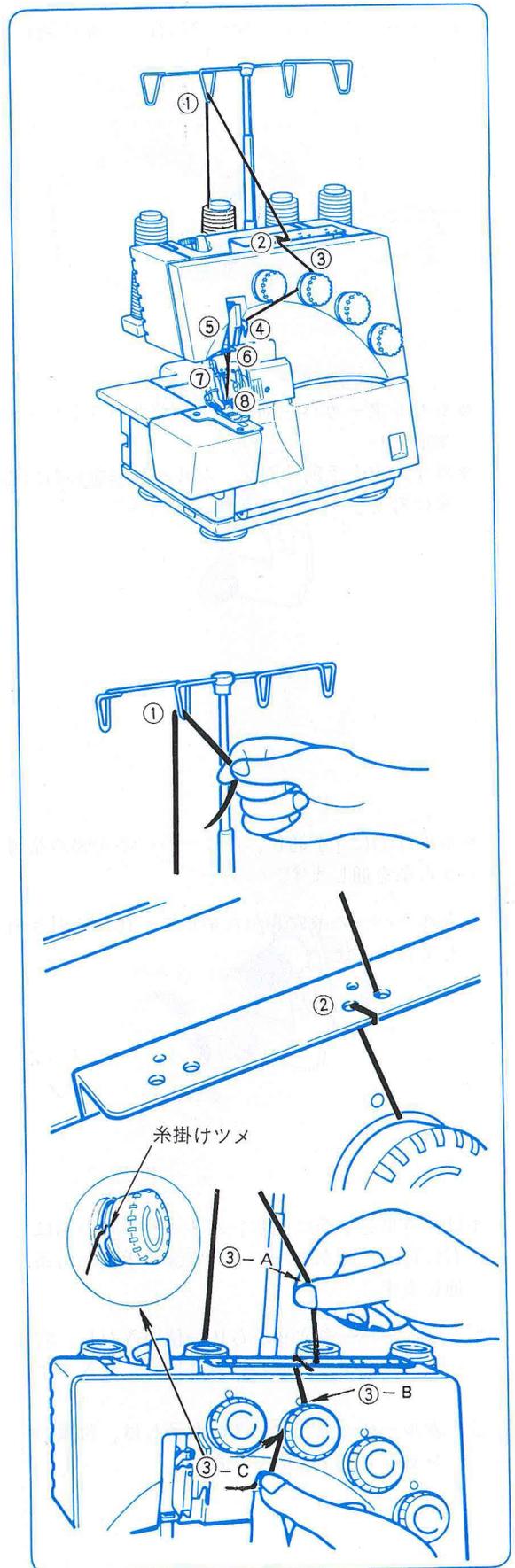
\*糸はルーパー糸穴⑨から10cm位引きだし、右ルーパーの上から針板の後方に出しておきます。

注) 左ルーパー糸穴⑧、⑨の糸通しは、付属のピンセットをご使用ください。



### (3) 右針の糸通し (グリーンマーク)

\* 右針糸を①～⑧の番号順に通してください。

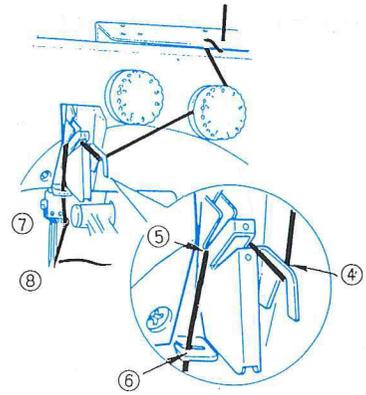


\* 糸掛け①の後から手前に糸を通します。

\* 糸案内板②の右の穴に糸を通し、糸を手前から引き上げて、左の穴の上から通します。

\* 糸調子皿の上で糸を保持し (③-A)、糸調子皿に糸をかけ (③-B)、糸を糸掛けツメ (③-C) の上まで持ち上げたあと、糸を引き下げて、糸調子皿の間に糸が正しくかけられているかどうか確かめます。

\*④～⑥までグリーンマークに従って糸を通します。

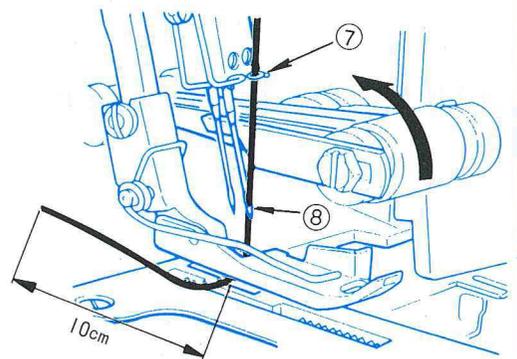


\*糸掛け⑦の右側に糸を通し、右針の穴⑧に手前からうしろ側に糸を通します。

注) 針穴⑧の糸通しは付属のピンセットをご使用ください。

注) 上メスを解除しておくとな針に糸が通しやすくなります。(裁縫するときには必ずメスを元の位置に戻してください)(21ページ参照)。

\*糸は針穴から10cm位引き出し、押えの下からうしろ側へ出しておきます。



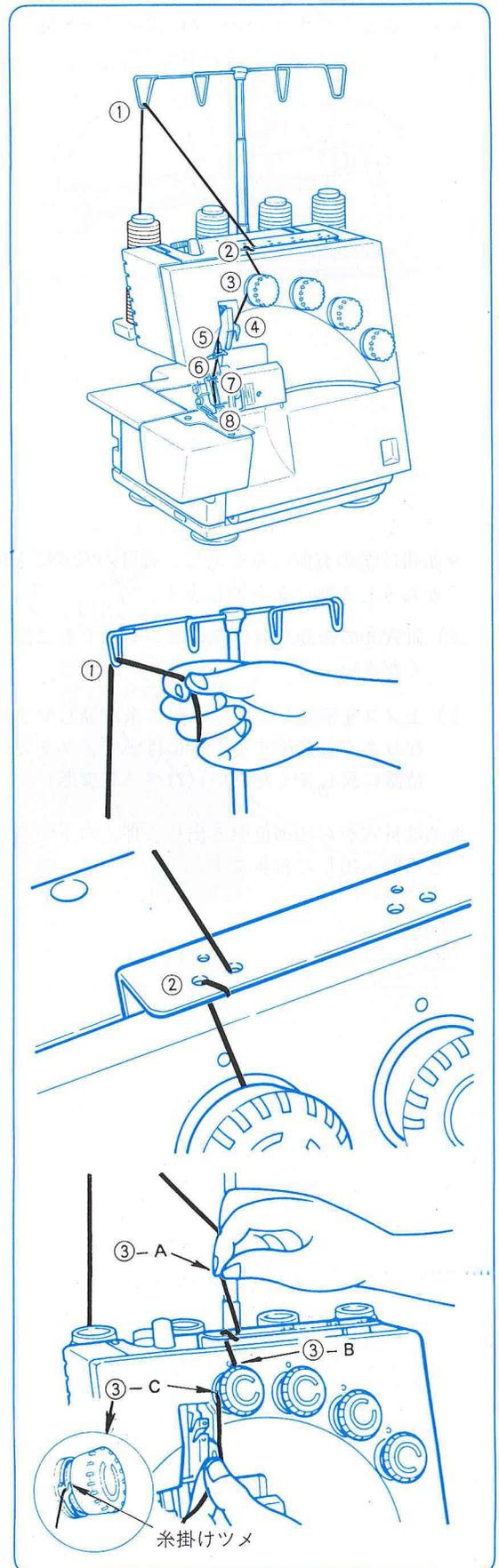
#### (4) 左針の糸通し (ブルーマーク)

\* 左針糸を①～⑧の番号順に通してください。

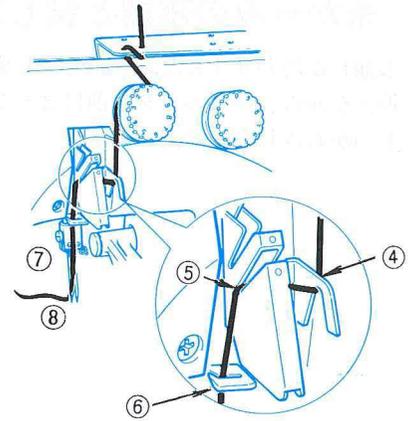
\* 糸掛け①の後から手前に糸を通します。

\* 糸案内板②の右の穴に糸を通し、糸を手前から引上げて、左の穴の上から通します。

\* 糸調子皿の上で糸を保持し (③-A)、糸調子皿に糸をかけ (③-B)、糸を糸掛けツメ (③-C) の上まで持ち上げたあと、糸を引き下げて糸調子皿の間に糸が正しくかけられているかどうか確かめます。



\*④～⑥までブルーマークに従って糸を通します。

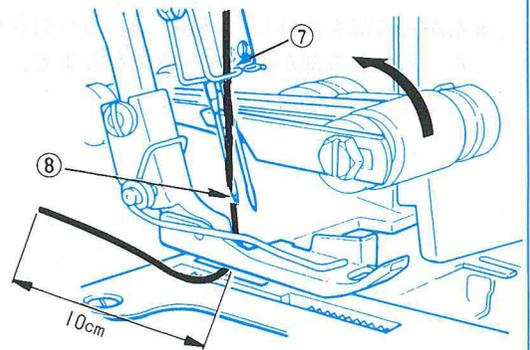


\*糸掛け⑦の左側に糸を通し、左針の穴⑧に、手前からうしろ側に糸を通します。

注) 針穴⑧の糸通しは付属のピンセットをご使用ください。

注) 上メスを解除しておくとな針に糸が通しやすくなります。(裁縫するときには必ずメスを元の位置に戻してください)(21ページ参照)

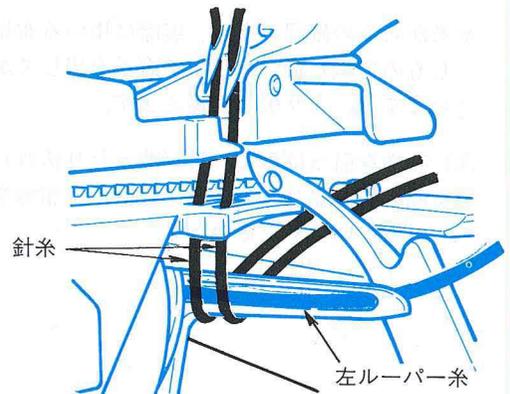
\*糸は針穴から10cm位引出し、押えの下からうしろ側へ出しておきます。



### ・左ルーパー糸が切れた時の正しい糸の通し方

\*左ルーパー糸が切れた時、又は外れた時は下記の要領で糸をかけ直ししてください。

- 1) まず針糸をはずしてください。
- 2) 次に左ルーパー糸を通します。
- 3) そしてもう一度針糸を通し直してください。  
(針糸はかならず最後に通してください)。



正しい糸通し(左ルーパー糸が針糸の内側を通る)



悪い糸通し(左ルーパー糸が針糸の外側を通る)

## 11. 糸からみの確認と試し縫い

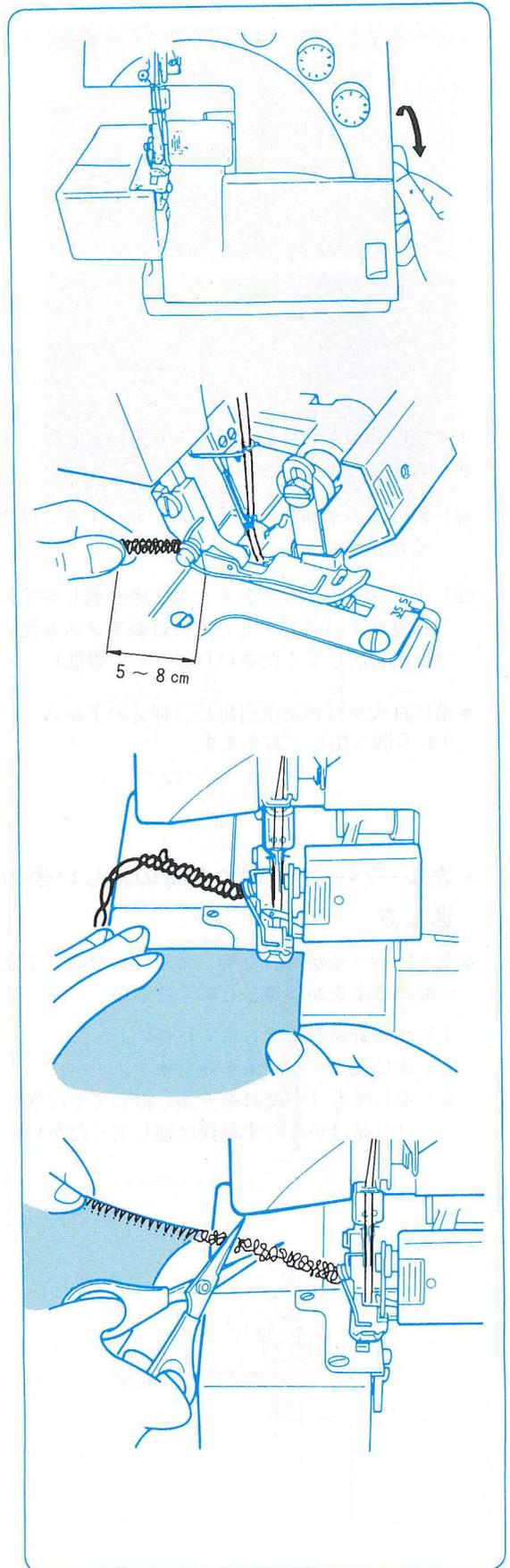
\*糸通しが終わりましたら、糸を少し張りぎみに押えながら、はずみ車を手前に2～3回まわし糸のからみ具合を確認します。

\*糸からみ部を保持し、かるくうしろへ引きながら、糸からみ部が5～8cm位になるまで、ミシンを運転させ確認します。

\*糸からみの確認のあと、実際に用いる布地と同じもので試し縫いをして糸調子を出してから縫いますと、より美しく縫えます。

注) 布地を引っぱると、針が曲ったり折れたりする原因になりますので、裁縫中は布地を引っぱらないでください。

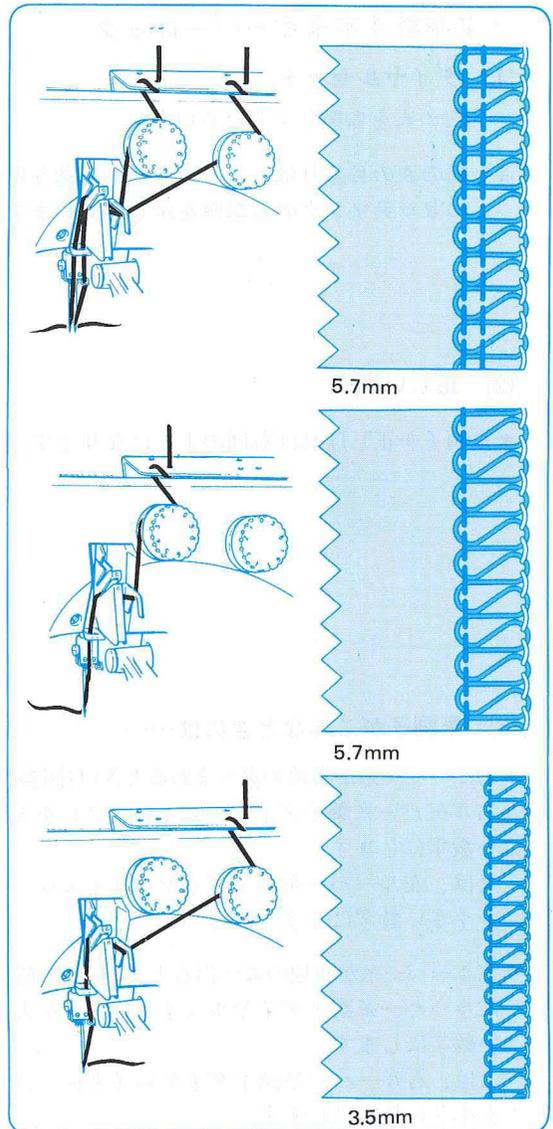
\*縫い終わりは、布地の端から5cm位長く空縫いし、ハサミで糸を切ります。



## 12. 基本ステッチの種類

### ・ 2本針4本糸オーバーロック

\* 左針と右針を使用して、かがり幅5.7mmの裁ち目かがりや、ニット地の合わせ縫いなどに利用できます。



### ・ 1本針3本糸オーバーロック

1) かがり幅5.7mm

\* 左針（ブルーマーク）のみを使用して、かがり幅5.7mmの裁ち目かがりや、厚物～普通地の合わせ縫いなどに利用できます。

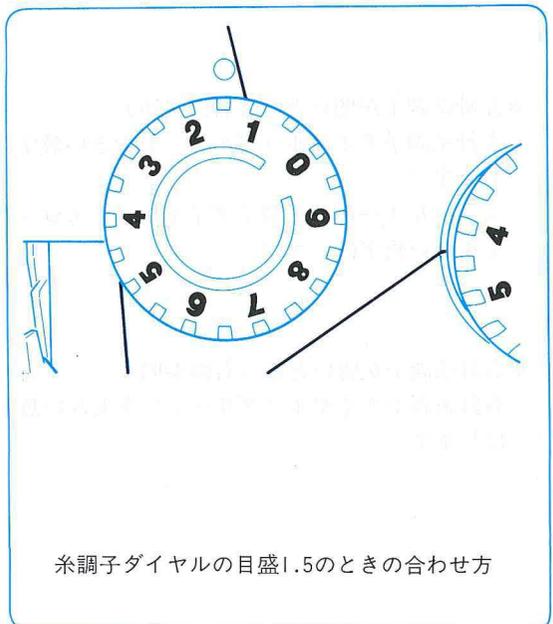
2) かがり幅3.5mm

\* 右針（グリーンマーク）のみを使用して、かがり幅3.5mmの裁ち目かがりや、普通地～薄物の合わせ縫いなどに利用できます。

## 13. 正しい糸調子のとり方

\*はじめにステッチごとに、表記されているダイヤルの目盛りに合わせてください。次に実際に用いる布地と同じもので試し縫いをし、必要ならば糸調子ダイヤルを微調整してください。

\*このミシンの糸調子ダイヤルは、一回転式になっており、数字が大きくなるほど糸調子は強くなります。



糸調子ダイヤルの目盛り1.5のときの合わせ方

## ・ 2本針4本糸オーバーロック

### (1) ダイアルセット

(右の表を参照してください。)

注) 右の表の目盛りは、スパン糸#90で縫う場合のセッティングの基準値を示してあります。

### (2) 正しい調子

\* 糸調子が正しければ右図のようになります。

### (3) 糸調子がこんなときには……

\* 右ルーパー糸が布地の裏へまわるとき(右図参照) 右ルーパー糸調子ダイヤル(オレンジ)を大きい数字にします。

又は、左ルーパー糸調子ダイヤル(イエロー)を小さい数字にします。

\* 左ルーパー糸が布地の表へ出るとき(右図参照) 左ルーパー糸調子ダイヤル(イエロー)を大きい数字にします。

又は、右ルーパー糸調子ダイヤル(オレンジ)を小さい数字にします。

\* 左針糸調子が弱いとき(右図参照)

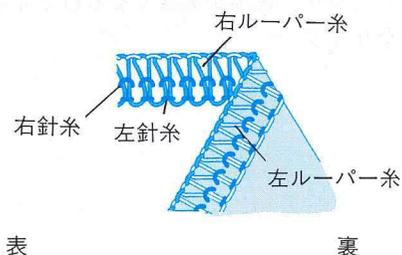
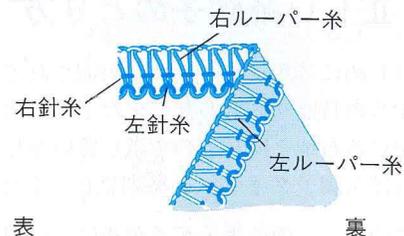
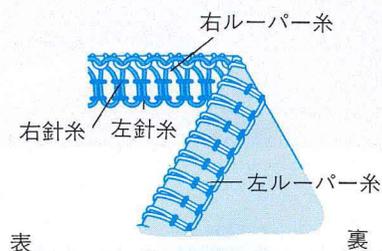
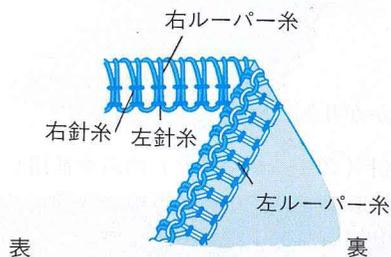
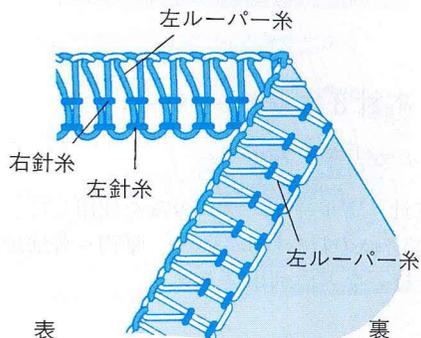
左針糸調子ダイヤル(ブルー)を大きい数字にします。

又は、左ルーパー糸調子ダイヤル(イエロー)を小さい数字にします。

\* 右針糸調子が弱いとき(右図参照)

右針糸調子ダイヤル(グリーン)を大きい数字にします。

布地	糸調子ダイヤル			
	ブルー	グリーン	オレンジ	イエロー
薄地	2.5	1.5	1.0	1.5
普通地	3.0	2.0	1.0	1.5
厚地	3.5	2.5	1.0	1.5



## ・ 1 本針 3 本糸オーバーロック

### (1) ダイヤルのセット

1) 左針/かがり幅5.7mmのとき  
(右の表を参照してください。)

2) 右針/かがり幅3.5mmのとき  
(右の表を参照してください。)

### (2) 正しい糸調子

\* 糸調子が正しければ右図のようになります。

### (3) 糸調子がこんなときには……

\* 右ルーパー糸が布地の裏へまわるとき(右図参照)  
右ルーパー糸調子ダイヤル(オレンジ)を大きい数字にします。  
又は、左ルーパー糸調子ダイヤル(イエロー)を小さい数字にします。

\* 左ルーパー糸が布地の表へ出るとき(右図参照)  
左ルーパー糸調子ダイヤル(イエロー)を大きい数字にします。  
又は、右ルーパー糸調子ダイヤル(オレンジ)を小さい数字にします。

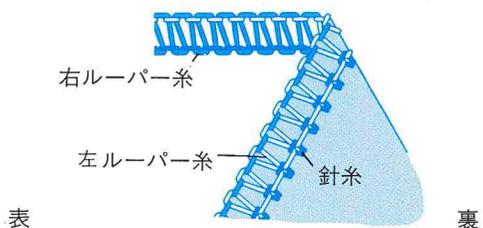
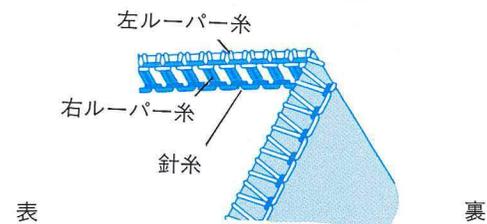
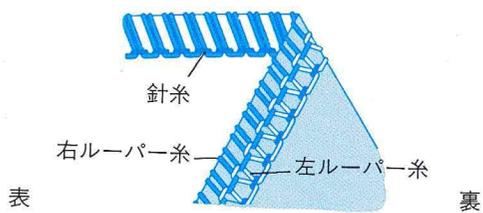
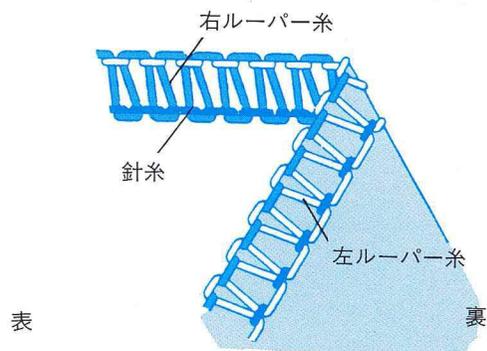
\* 針糸調子が弱いとき(右図参照)  
針糸調子ダイヤル(ブルーまたは、グリーン)を大きい数字にします。  
又は、左ルーパー糸調子ダイヤル(イエロー)を小さい数字にします。

かがり幅5.7mmのとき

布 地	糸調子ダイヤル			
	ブルー	グリーン	オレンジ	イエロー
薄 地	2.5		1.0	1.5
普 通 地	3.0		1.0	1.5
厚 地	3.5		1.0	1.5

かがり幅3.5mmのとき

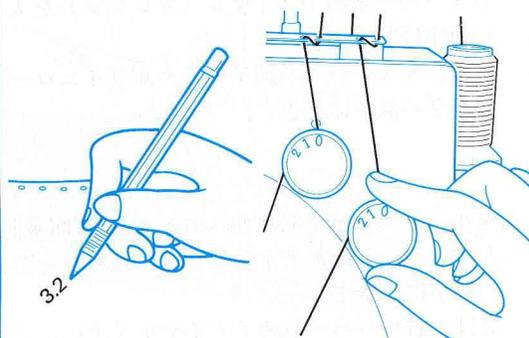
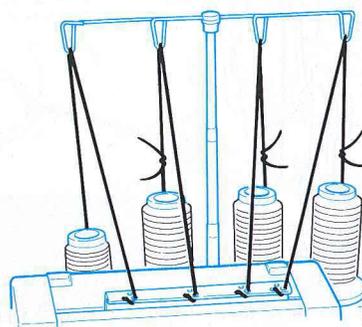
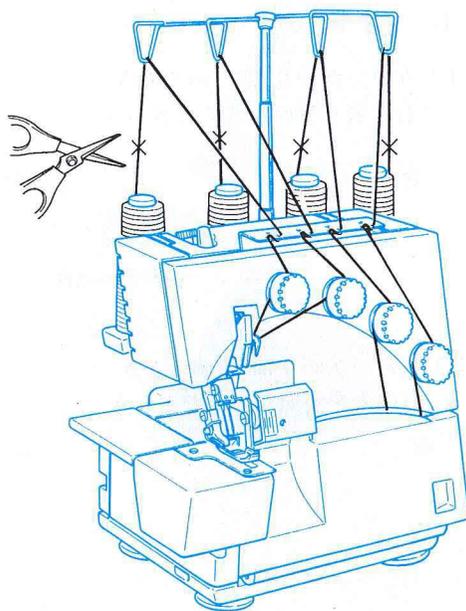
布 地	糸調子ダイヤル			
	ブルー	グリーン	オレンジ	イエロー
薄 地		2.0	1.0	1.5
普 通 地		2.5	1.5	1.5
厚 地		3.0	1.5	1.5



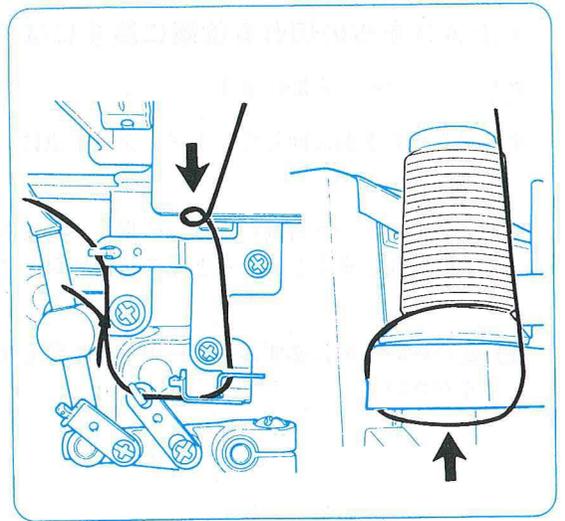
## 14. 糸の交換

このミシンはあらかじめ糸がセットされています。糸を他の糸と交換したいときは、次のようにすると便利です。

- \* 右図のように糸巻き付近で糸を切り交換したい糸につなぎ変えます。
- \* 押えをあげます。
- \* 各糸調子ダイヤルの目盛りをメモしておきます。
- \* それぞれの糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ止まるまで回し、糸のつなぎ目が押えより10cm位出るまで引き出します。ただし針糸を引き出すときは、針を曲げないようにつなぎ目を針穴の手前で止め、糸を切って針穴に通します。
- \* 各ダイヤルの目盛をメモしておいた数字に戻します。

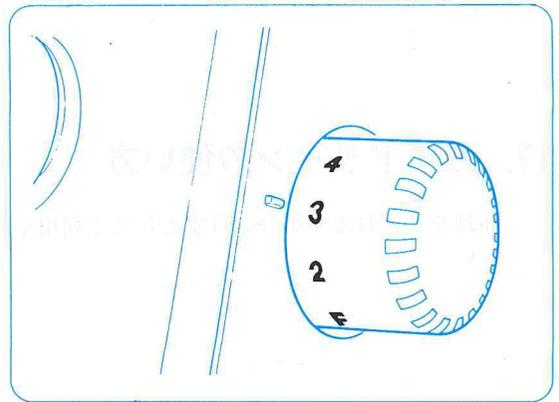


注) 糸が簡単に引き出せない場合は、糸掛けにか  
らまっていないか、または糸立台の下にひっ  
かかっているかどうかを点検してください。



## 15. 縫い目長さの調節

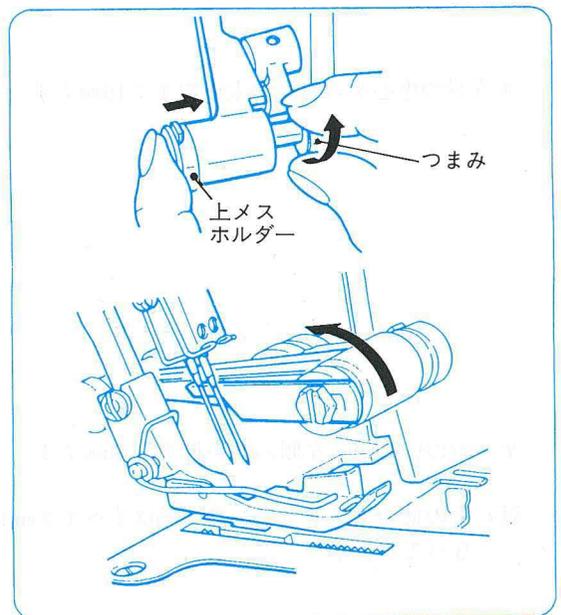
- \* このミシンの送り調節ダイヤルは、あらかじめ普通地用の3mmにセットされています。
- \* キルティング等の厚物には4mmにセットします。
- \* 裏地やジョーゼットの様な薄物は、2mmにセットしますと布地にしわが寄らずきれいに縫えます。
- \* 巻キロックのときは“2～F”にセットします。
- \* まつり縫いのときは4～5mmにセットします。



## 16. 上メスの解除

### ・上メスの解除のしかた

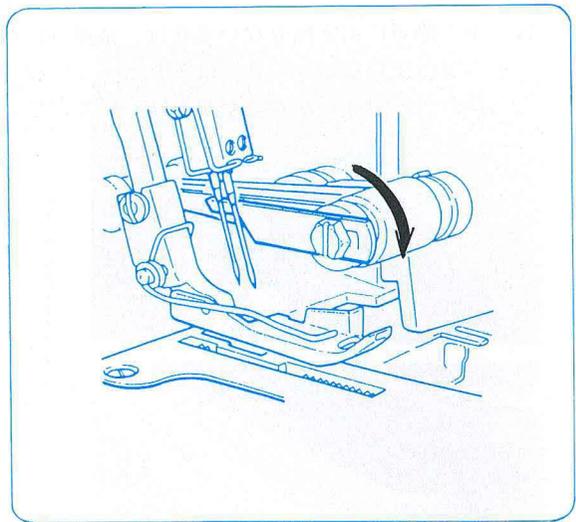
- \* ルーパーカバーを開けます。
- \* はずみ車を手前に回して、上メスを最下点にします。
- \* 上メスホルダーを右側いっぱい押し、つまみを矢印の方へ回すと、カチッと水平の位置に上メスがおさまり解除されます。



• 上メスを布の切れる位置に戻すには

- \* ルーパーカバーを開けます。
- \* はずみ車を手前に回して、上メスを最下点にします。
- \* 上メスホルダーを右側いっぱい押し、つまみを手前に回しますとカチッと元の位置に戻ります。

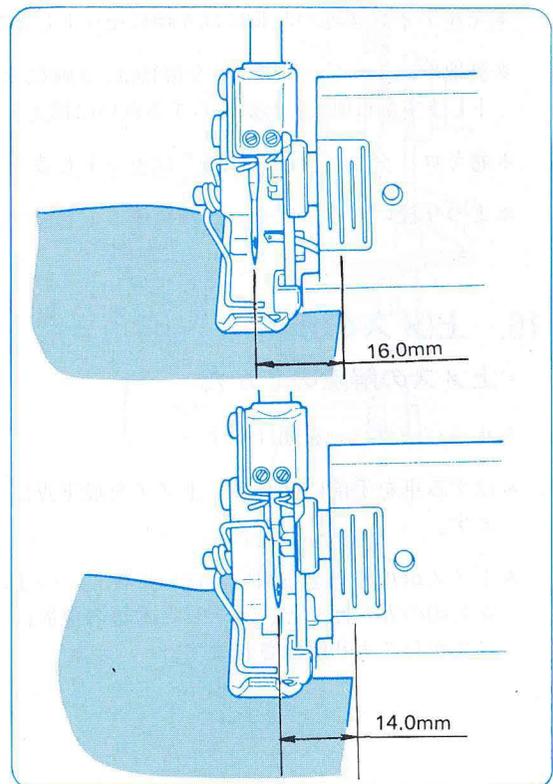
注) 縫い始める前に必ずルーパーカバーを閉じてください。



## 17. ガイドラインの使い方

布地を切りおとす場合の目安としてご利用ください。

- \* 左針の中心から左側の太い線まで16mmです。



- \* 右針の中心から左側の太い線まで14mmです。

注) その他のガイドラインの間隔はすべて2mmになっています。

## 18. かがり幅の調節

かがり幅調節には、針の取り付け位置変更による方法とかがり幅調節つまみによる方法があります。

### ・針の取り付け位置変更による調節

1本針オーバーロックは、針の取り付け位置を変えることにより、かがり幅を変えることができます。

左針のみ使用の時……………5.7mm

右針のみ使用の時……………3.5mm

### ・かがり幅調節つまみによる調節

かがり幅調節つまみを調節することにより、左針の場合で5.7mmから7.2mmに、右針の場合で、3.5mmから5.0mmまで簡単に調節できます。

\* 安全のため、電源スイッチを切ってください。

\* ルーパーカバーをあけます。(4ページ参照)

\* はずみ車を手前に回して、上メスを最下点にし、上メスを解除します。(21ページ参照)

\* シリンダーカバーをはずします。(7ページ参照)

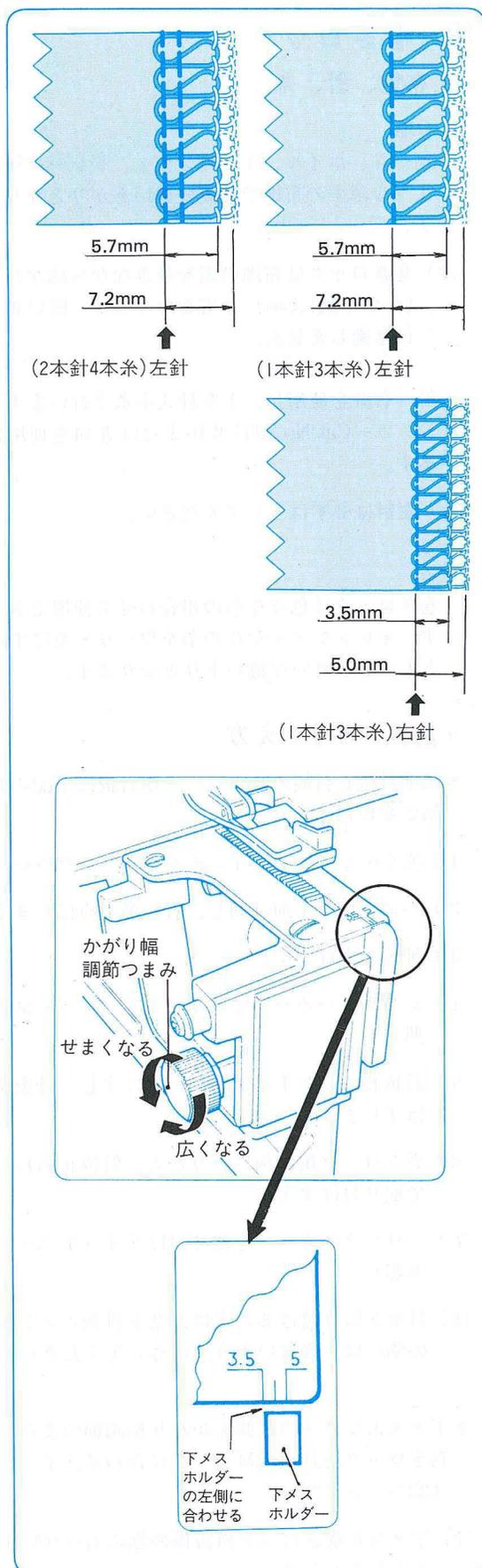
\* かがり幅調節つまみを回し、針板の目盛りを目安に、希望するかがり幅に合わせます。

\* シリンダーカバーを取り付けます。(7ページ参照)

\* 上メスをもとの位置にもどし、ルーパーカバーをしめます。

\* 試し縫いをします。

注) かがり幅は、3.5mm以下にしないでください。



## 19. 巻きロック

### ・布地、針、糸

#### \*布地

ローン、ボイル、オーガンディ、クレープ等のような薄手の布地で最高の縫いあがりとなります。

**注)** 巻きロックは布地の端を巻きながら縁かがり(かがり幅1.5mm)をするので厚地、固い布地には適しません。

\*針(右針を使用し、1本針3本糸で行います)  
シンガーCat.No.2054 #10または#14を使用します。

**注)** 左針は必ずはずしてください。

#### \*糸

巻きロックは色々な糸の組合わせで使用できます。オレンジダイヤルの糸をウーリー糸にするととてもきれいな縫い上りとなります。

### ・針板のとりかえ方

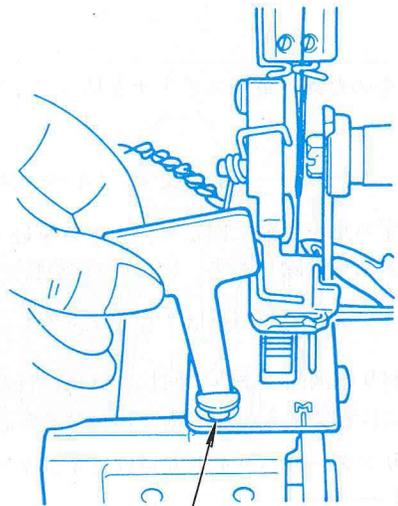
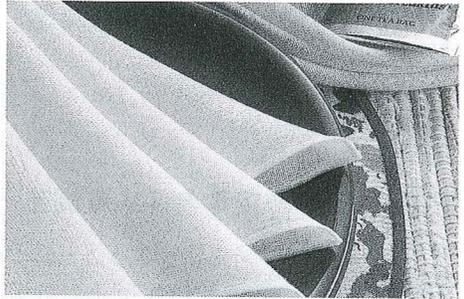
\*標準針板を付属の巻きロック用針板に下記の要領で交換します。

- 1) 安全のため電源スイッチを切ってください。
- 2) ハズミ車を手前に回し、針を最上点にします。
- 3) 押えを上げます。
- 4) シリンダーカバーをはずします。(7ページ参照)
- 5) 針板止めねじ1本(右図)をはずし、針板をはずします。
- 6) 巻きロック用針板にとりかえ、針板止めねじで取り付けます。
- 7) シリンダーカバーを取り付けます。(7ページ参照)

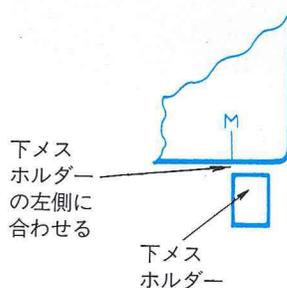
**注)** 針板を取り付けるときは、糸を針板とミシンの間にはさまないように注意してください。

\*下メスホルダーの左側をかがり幅調節つまみで巻きロック用針板のMマークに合わせます。(23ページ参照)

**注)** 下メスが巻きロック用針板の端に当たらないようにしてください。



針板止めねじ



\* 送り調節ダイヤルを“2~F”にセットすれば美しい縫い目がえられます。

このミシンは2種類の巻きロックを縫うことができます。

### ・標準巻きロック

#### (1) 正しい糸調子

糸調子が正しければ右図のようになります。

#### (2) ダイアルのセット

各糸調子ダイヤルを右表のように合わせ、次に実際に用いる布地と同じもので試し縫いをし、必要ならば糸調子ダイヤルを微調整してください。(19ページ参照)

### ・変形巻きロック

1本針3本糸での変形巻きロックは右ルーパー糸(オレンジ)を巻き込んだ縫い目になります。

注) ウーリー糸をご使用になる場合はオレンジダイヤルにのみご使用ください。

#### (1) 正しい糸調子

糸調子が正しければ右図のようになります。

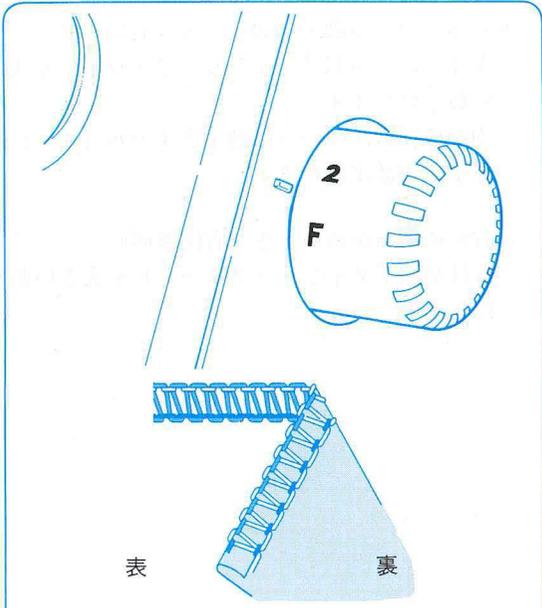
#### (2) ダイアルのセット

各糸調子ダイヤルを右表のように合わせ、次に実際に用いる布地と同じもので試し縫いをし、必要ならば糸調子ダイヤルを微調整してください。

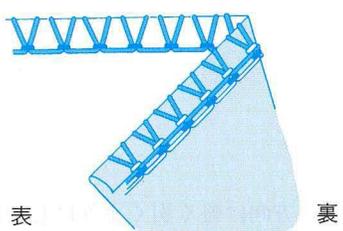
#### (3) 糸調子がこんなときには……

\* 右ルーパー糸調子が弱いとき(右図参照)

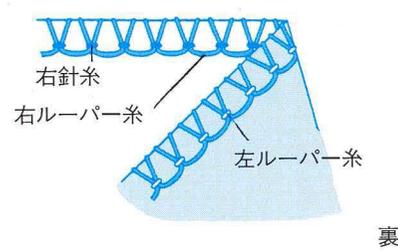
右ルーパー糸調子ダイヤル(オレンジ)を大きい数字にします。



糸調子ダイヤル			
ブルー	グリーン	オレンジ	イエロー
	2.0	3.0	2.5

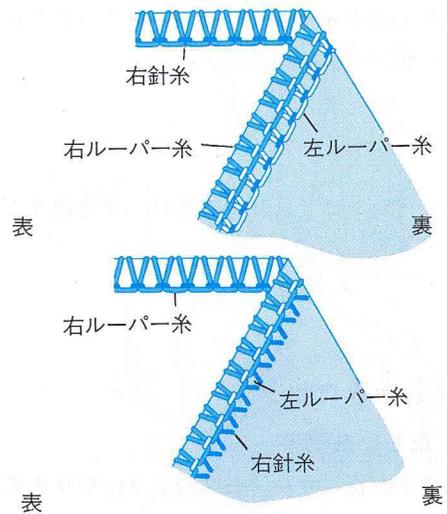


糸調子ダイヤル			
ブルー	グリーン	オレンジ	イエロー
	2.0	1.5	5.0



\* 左ルーバー糸調子が弱いとき（右図参照）  
 左ルーバー糸調子ダイヤル（イエロー）を大きい数字にします。  
 または、右ルーバー糸調子ダイヤル（オレンジ）を小さい数字にします。

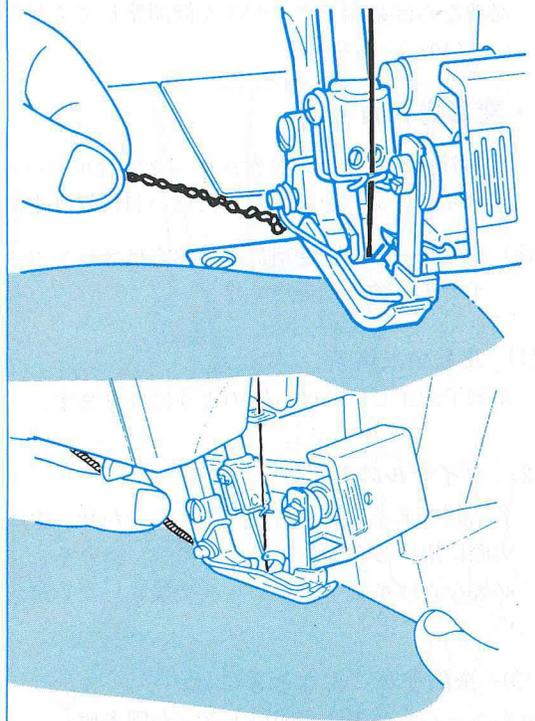
\* 右針糸調子が弱いとき（右図参照）  
 右針糸調子ダイヤル（グリーン）を大きい数字にします。



### • 縫い方

\* 縫い始めに空縫いの糸端が巻き込まれないように、空縫いの糸端を軽く引きながら縫ってください。

\* 布を縫い方向に軽く引くようにして縫いますと、より美しい縫い上がりがえられます。



## 20. 応用縫い

### ・飾りステッチ

余分な布端を切りながらの飾りステッチと、切らずに布の中心に飾りステッチを入れる2通りが縫えます。

#### (1) 準備

- \* 標準針板を使用します。
- \* 左針または右針をはずします。

注) 右ルーパー糸が飾り糸になりますので、針糸と左ルーパー糸には細くて目立たない糸をご使用ください。

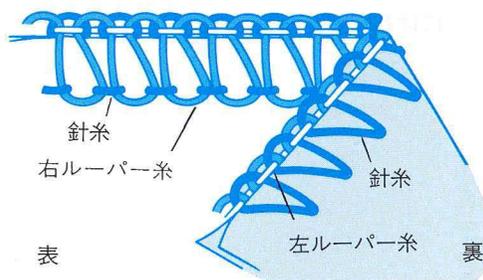
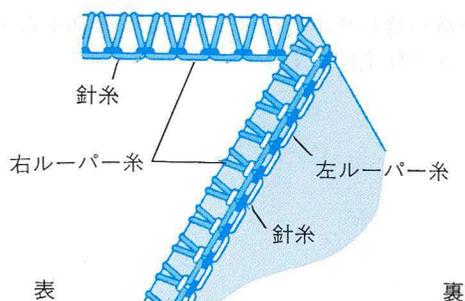
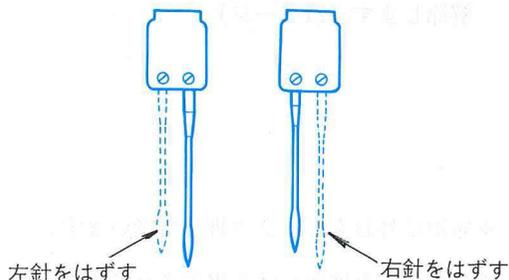
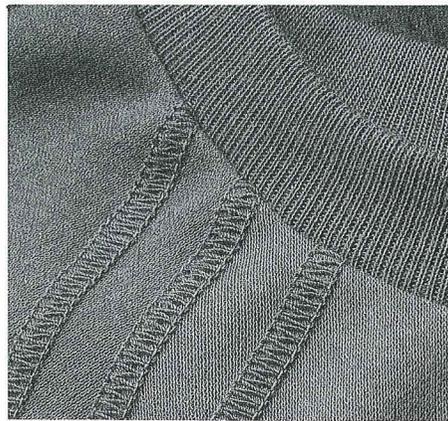
#### (2) 糸調子のとり方

- \* 1本針3本糸オーバーロックの標準の縫い目に合わせ、試し縫いをします。
- \* 右ルーパーの糸調子ダイヤル（オレンジ）は、できるだけ弱く合せます。
- \* 右ルーパー糸ができる限り針糸と接するように、左ルーパー糸調子ダイヤル（イエロー）を大きい数字にします。
- \* 右ルーパー糸、左ルーパー糸、針糸が全部布の縁に揃うように、針糸調子ダイヤル（グリーンまたは、ブルー）を小さい数字にします。針糸（ブルーまたはグリーン）は布地の裏でV形を形成します。左ルーパー糸は布端で直線になります。

#### (3) 縫い方

##### 1) 布地を切りながら縫う場合

- \* 布地は外おもてに合わせ、余分な布を切り取りながら縫います。



\*縫い目を左右両側から引張ってステッチを平らにします。

## 2) 布地を切らないで縫う場合

\*27ページと同様に準備を行ったあと、上メスを解除します。(21ページ)

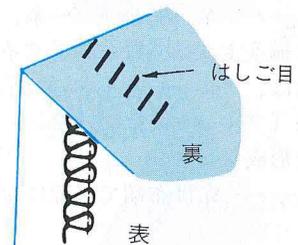
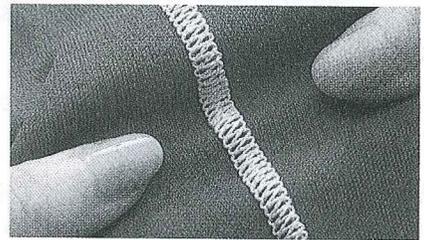
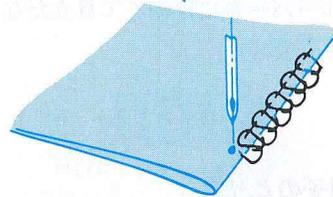
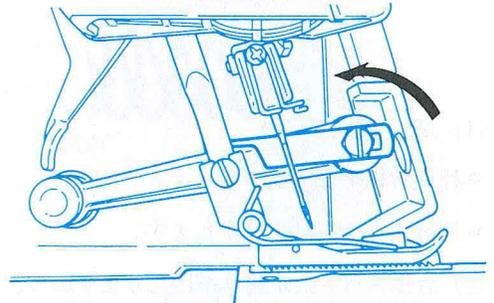
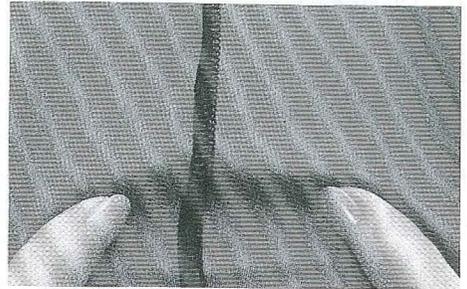
\*布地は外おもてに2つ折りで縫います。

\*縫い目が布地からはみ出すように布地をセットします。

\*縫い終わりましたら、布を広げ裏面からアイロンで仕上げます。

注) 縫いあがった布地の裏側の縫い目は右図のようにはしご目になります。

注) 別売り品のエッジガイドを使いますとさらにきれいに縫えます。(41ページ参照)



## ・まつり縫い

ニットウェアの袖口、スカートの裾などのまつり縫いをするとき、布地の表に縫い目が見えないように縫う方法です。

### (1) 準備

- \* 標準針板を使用します。
- \* 左針をはずします。
- \* 縫い目長さは4～5mmに合わせます。

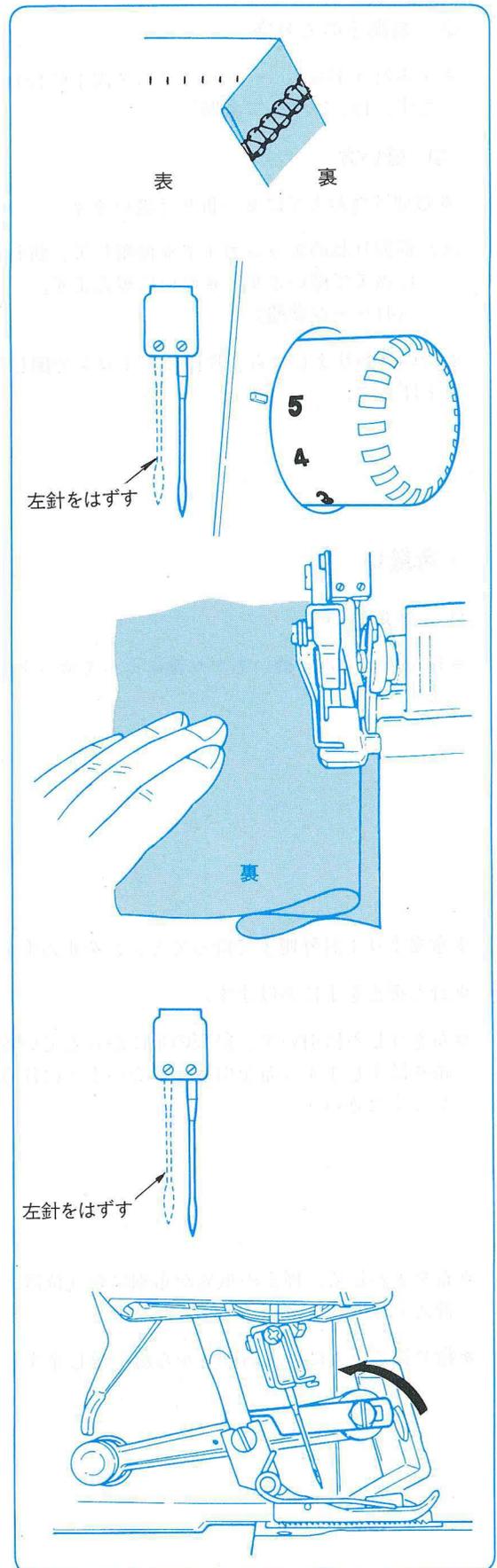
### (2) 糸調子のとり方

- \* 1本針3本糸オーバーロックの糸調子に合わせます。(19ページ参照)

### (3) 縫い方

- \* 3枚重ねのように折った布地の折れ山に針がわずかにかかるようにして、布端を縫います。

注) 別売り品のブランド押えを使うと、さらにきれいに縫えます。(41ページ参照)



## ・ピンタック縫い

子供服、ブラウス等に利用できます。

### (1) 準備

- \* 標準針板または、巻きロック用針板を使用します。
- \* 左針をはずします。
- \* ルーパーカバーを開けます。
- \* はずみ車を手前に回して上メスを最下点にして上メスを解除します。(21ページ参照)

## (2) 糸調子のとり方

\* 1本針3本糸オーバーロックの糸調子に合わせます。(19、25ページ参照)

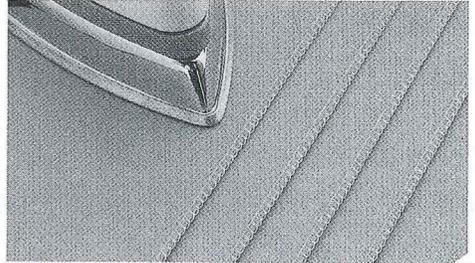
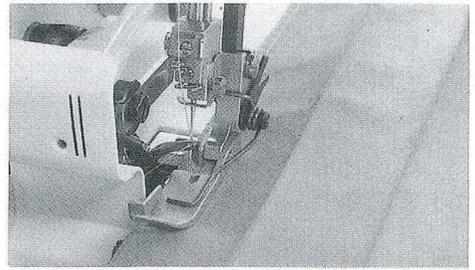
## (3) 縫い方

\* 布地は外おもてに2つ折りで縫います。

注) 別売り品のエッジガイドを使用して、折れ山に当てて縫いますときれいに縫えます。

(41ページ参照)

\* 縫い終わりましたら、片側にアイロンで倒し仕上げます。



## ・角縫い

### (1) 外角縫い

\* 角を4 cmぐらい縫いあがり線にそってカットします。

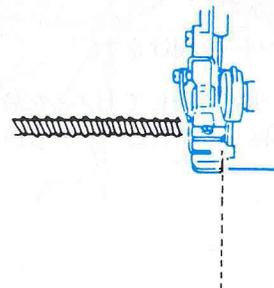
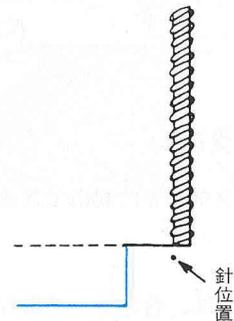
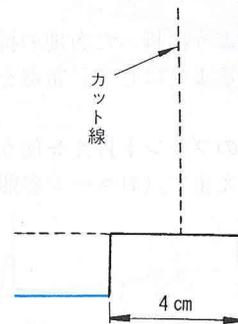
\* 布端より1針外側まで縫ってミシンを止めます。

\* 針と押えを上にあげます。

\* 布をうしろに引いて、針板の爪にからんでいる糸をはずします。(布を引きすぎないように注意してください。)

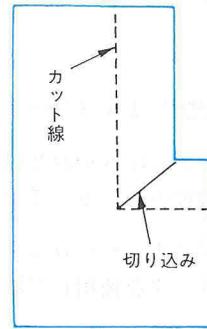
\* 布をまわして、押えの爪先が布端に合う位置に押えをおろします。

\* 指で針糸を上を引きあげてから縫い出します。

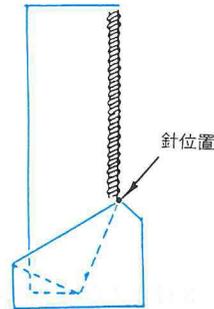


## (2) 内角縫い

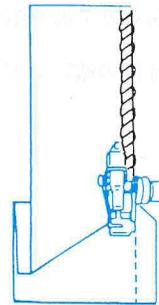
- \* 縫いあがり線まで、切り込みをいれます。
- \* カット線に合わせて縫います。



- \* 針を対角線折山の下側きわでとめます。(針は布地に刺しておきます。)



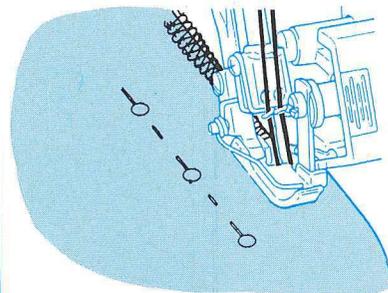
- \* 押えを上にあげます。(針は布地に刺したまま)
- \* 折りたたんだ布を開いてかがり線が直線になるようにたたみ直してから縫い出します。



### ・ピンをさす場所

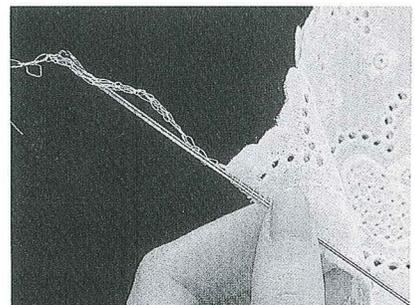
- \* 押えの左側にピンをさします。

注) ピンの上を縫えば、メスの刃を損傷したり破損することになります。



### ・糸端のしまつ

- \* 空縫い部を平にして、針に通し、縫い目にくぐらせてほつれを防止します。



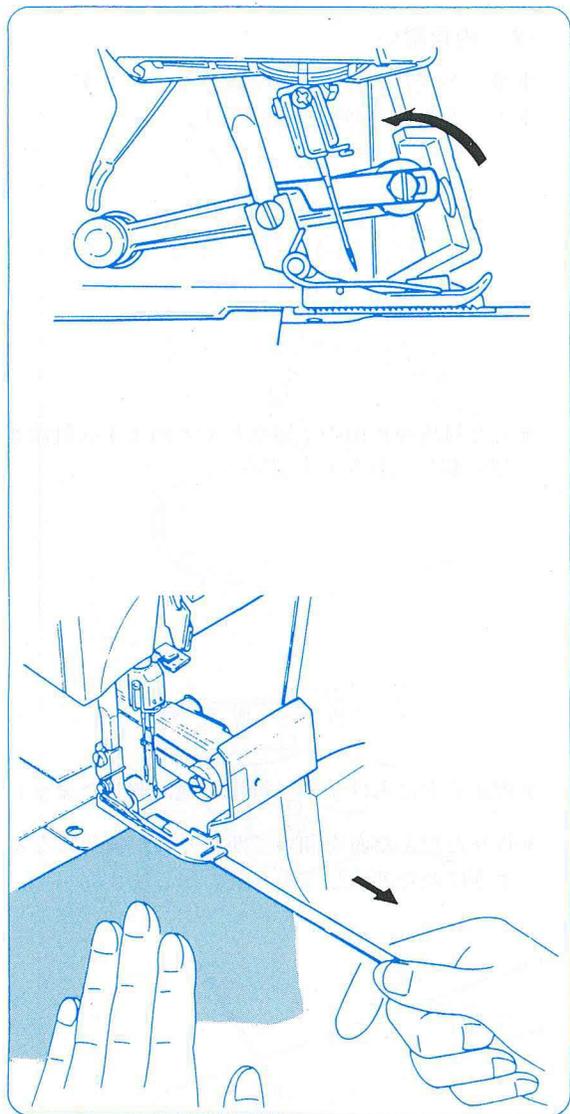
## ・ゴムひも付け縫い

### (1) 準備

- \* 上メスを解除します。(21ページ参照)
- \* ゴムひもとゴムひもを取り付ける部分を4つに分けて水溶性のマーカーでマークしておきます。
- \* 2本針4本糸オーバーロック又は1本針3本糸オーバーロックを使用して縫います。

### (2) 縫い方

- \* 布地に2～3針ゴムひもを縫いつけた後、右手でゴムひもを伸ばしながら(1度に4分の1)布地はミシンに送らせて縫い続けます。
- \* 左手で布地を針板の端に合せます。

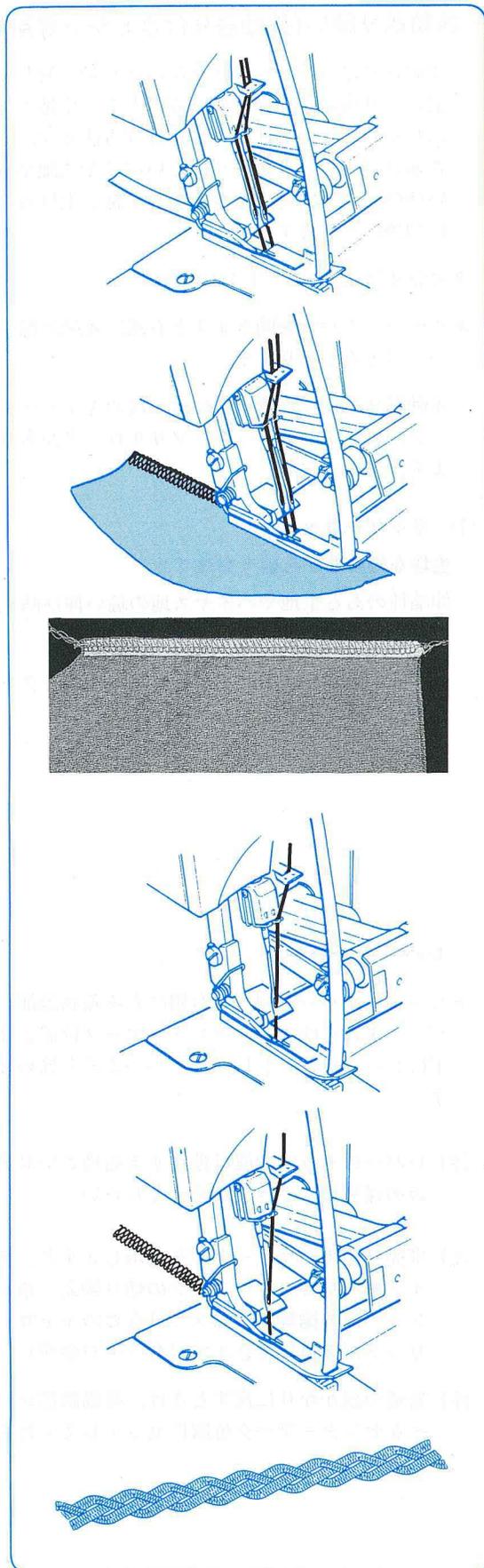


## ・テープ付け縁かがり縫い

ニット地などの伸縮性のある布地の肩線や脇線の伸び防止に使います。

### 縫い方

- \* テープは押えの前部の穴を通して、押えの下からミシンのうしろ側に引き出して縫います。
- \* 2本針4本糸オーバーロックを使用して縫います。



## ・空環ブレード

ロックの空縫いを利用してひもが作れます。  
三つ編み、四つ編みにして組ひもも作れます。

### 縫い方

- \* 上メスを解除します。(21ページ参照)
- \* 押えの穴に毛糸やテープ等を通して芯にします。
- \* 芯のひもを押えの下に置いて希望の長さに空縫いします。

## ・差動送り縫い(差動送り付きミシン専用)

差動送りは、うしろの送り歯の送り量に対し手前の送り歯の送り量を変えることで、生地を伸ばしたり、縮めたりしながら縫う方法です。普通ロックでは、かがりにくいバイヤス地や縫い伸びの出やすい生地を、美しく縫い上げるのに効果があります。

\* 差動比は1:0.8~1:2.0です。

\* ルーパーカバーを開きますと右端に差動調節レバーつまみがあります。

差動送りを使った縫い方には、次のギャザーロック、ストレッチロック、フリルロックがあります。

### (1) ギャザーロック

生地を縮めながら縫う方法です。

伸縮性のある生地やバイヤス地の縫い伸び防止や、いせ込みかがり等にご利用ください。

1本針3本糸、2本針4本糸オーバーロックを利用して縫えます。

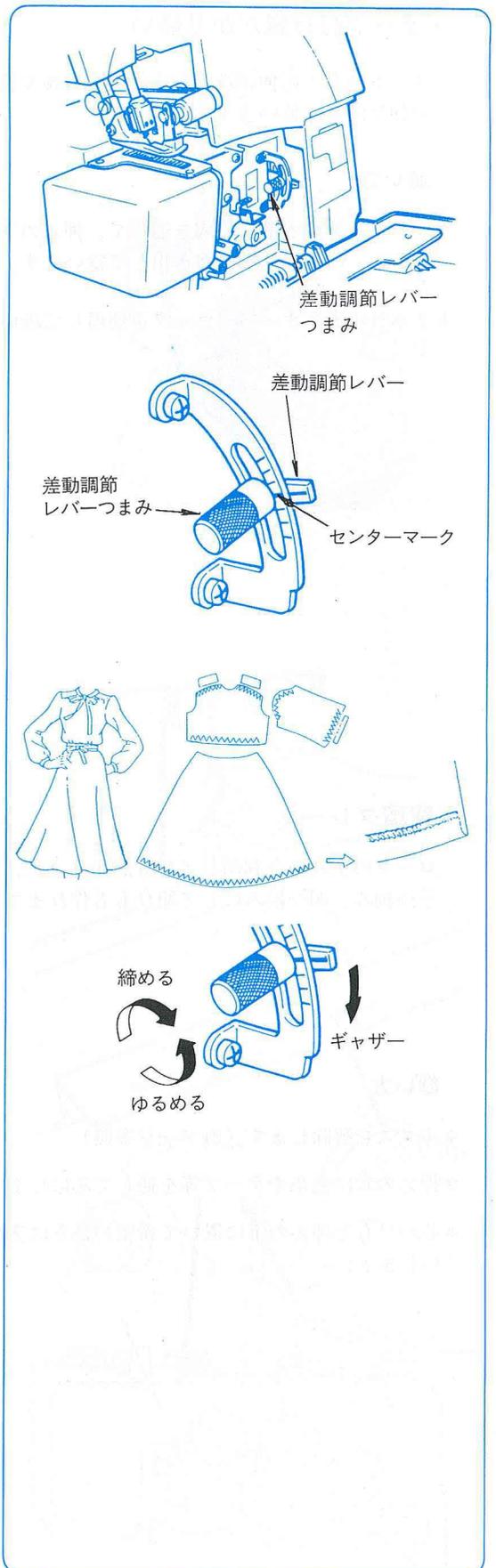
### レバーの合わせ方

\* ルーパーカバーを開き、右側にある差動調節レバーつまみをゆるめ、センターマーク位置より下にレバーをセットしてレバーつまみを締めます。

注) レバーのセット位置は使用する布地といせ込みの送り量によってかえてください。

注) 別売り品のセパレーターを使用しますと、ティアードスカートやヨークの切り換え、袖口、スカートの裾等のレースつけなどのギャザリングが簡単にできます。(42ページ参照)

注) 普通の縁かがりに戻すときは、差動調節レバーをセンターマーク位置にセットしてください。

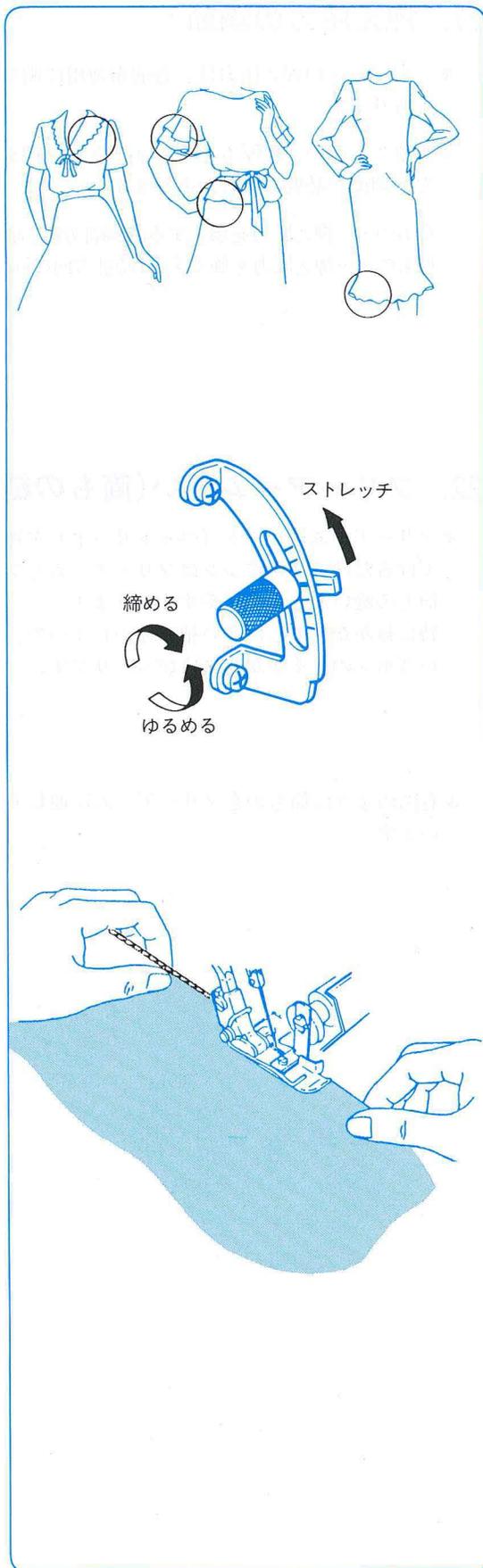


## (2) ストレッチロック、フリルロック

\*生地を伸ばしながら縫う方法です。

縫い縮み防止として利用する場合と、フリルロックとして利用する場合の2通りがあります。

\* 1本針3本糸オーバーロック、2本針4本糸オーバーロックを利用して縫い縮み防止ストレッチロックが、また、1本針3本糸巻きロックを利用してフリルロックが縫えます。



### レバーの合せ方

\*ルーパーカバーを開き、右側にある差動調節レバーつまみをゆるめます。  
レバーをセンターマーク位置より上にセットしてつまみを締めます。

### 縫い方

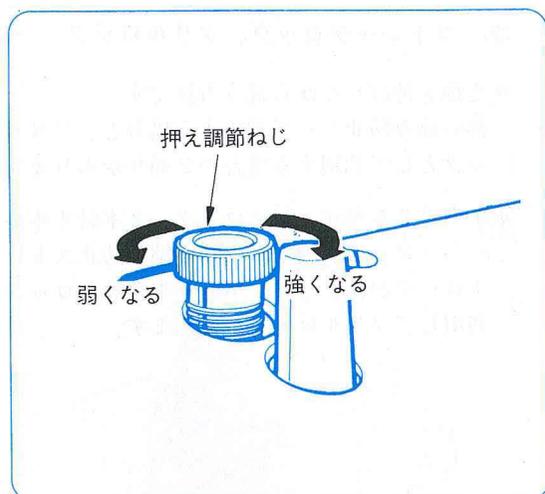
\*手前の布を軽く押え、後ろに引くようにしますと、より美しく縫い上がります。

注) 布端の上に縫い目がかからない時は、素材にストレッチ量が合っていないので、送り調節ダイヤル目盛りを小さくし、差動調節レバーをセンターマークに近づけてください。

注) 普通の縁かがりに戻すときは、差動調節レバーをセンターマーク位置にセットしてください。

## 21. 押え圧力の調節

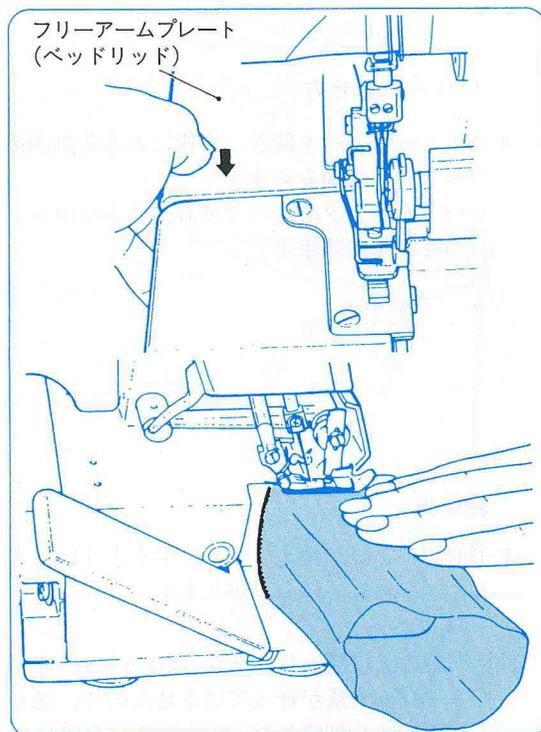
- \* このミシンの押え圧力は、普通布地用に調整してあります。
  - \* 極薄のものや、極厚ものを縫うときに、押え圧力の調節が必要な場合があります。
- 薄もの……押え圧力を弱くする(反時計方向に回す)  
厚もの……押え圧力を強くする(時計方向に回す)



## 22. フリーアーム縫い(筒ものの縫い)

- \* フリーアームプレート (ベットリッド) を押し下げるだけでこのミシンはフリーアームとなり、筒ものの縫いがとてもしやすくなります。
- 特に縁かがりのしにくい袖つけのしまつや、細いズボンのすそかがりにはぴったりです。

- \* 右図のように筒ものをフリーアームに通して縫います。



## 23. 針と糸と布地の関係

布地の種類		糸の種類	針 シンガーCat.No.2054
薄地	ローン、オーガンジー ボイル、ジョーゼット ポーラ 等	綿#100 絹#100 スパン#80～#90 テトロン#80～#100	#10、#14
普通地	モスリン、サッカー、 サテン、ギャバジン、 ブロード 等	綿#60～#80 絹#50 スパン#60～#90 テトロン#60～#80	#10、#14
厚地	オックスフォード デニム、ツイード、 コール天、サージ 等	綿#40～#60 絹#40～#60 スパン#60～#80 テトロン#50～#80	#14 (#16)
ニット地	トリコット 等の 薄地	スパン#80～#100 テトロン#60～#100	#10、#14
	ジャージー 等の 中厚地	スパン#60～#80 テトロン#60～#80 綿#60～#80	#10、#14
	毛糸編地 等の 厚地	スパン#60～#80 テトロン#50～#60 ウーリー(ルーバー糸)	#10、#14

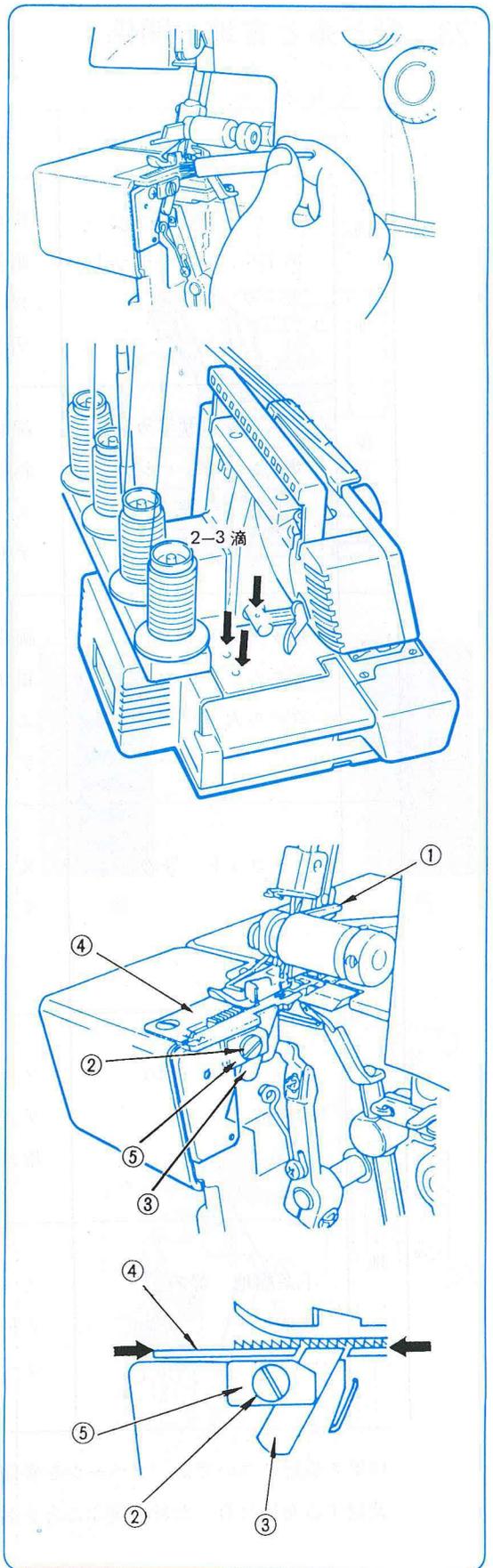
使用する針については、2ページを参照してください。

裁縫する布地に合った針を選ぶことをおすすめします。

## 24. ミシンの手入れ(掃除と注油)

- **掃除** (掃除の前に必ず電源プラグをコンセントからはずしてください。)
- \* ミシンを長もちさせるためには日常のお手入れが大切です。  
一般には、一週間に一度、連続して使用するときは毎日、また長期間使用しなかったミシンは使う前に一通り掃除してください。
- \* ルーパーカバーをあけて、ミシンに付いた縫いばこりをブラシで掃除してください。
- **注油**
- \* このミシンの大切な部分には、特殊な材料を使用しておりますので、注油の必要はありませんが、右図に示した箇所には、定期的に注油してください。

注) ミシン油を使用してください。



## 25. メスの交換

(安全のため電源スイッチを切ってください。)

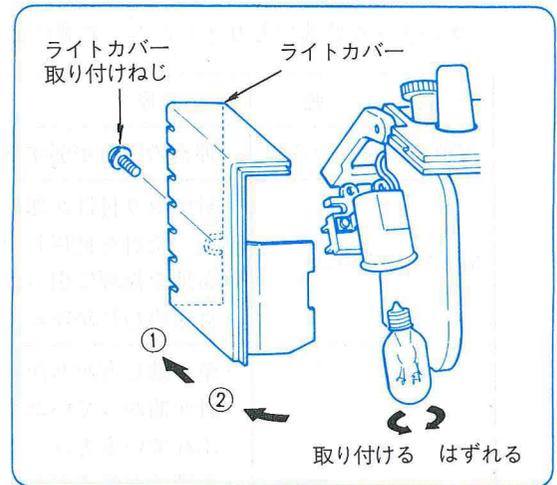
- \* 布が切れなくなったら交換する必要があります。
  - \* 新しい下メスは、お買い上げの販売店でお求めください。
  - \* 下メスの交換は、下記の要領でできますが、わかりにくい場合は、お買い上げの販売店等に依頼してください。
- 1) ルーパーカバーを開き、上メス①を解除します。(21ページ参照)
  - 2) 下メス止めねじ②をゆるめ、下メス③をはずします。
  - 3) 新しい下メスを下メスホルダーの溝に入れ、刃先を針板④上面と同じ高さに合わせて、下メス止めねじ②を締めます。
  - 4) 上メスを元の位置に戻します。

## 26. 電球の取りかえ方

(安全のため電源スイッチを切ってください。)

電球はお買い上げの販売店等でお求めになれます。その際は古い電球をお持ちになり同一の電球(100V、15W)とご指定ください。

- \* 右図のようにライトカバー取り付けねじを外してください。次にライトカバーをうしろへ押しながら、左うしろへはずします。
- \* 電球を左に回して(ねじをゆるめるように)はずします。
- \* 取り付けは、電球をソケットに入れ右へ止まるところまで回します。
- \* ライトカバーを取り付け、ねじをしっかりと締めつけてください。



## 27. ミシンの調子の悪い原因と調整のしかた

次のような状態になりましたら、必要に応じて下記の調整をしてください。

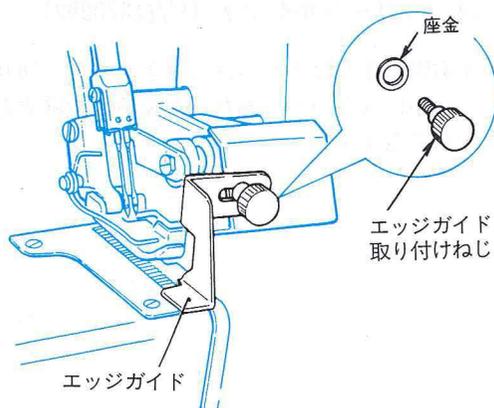
状 態	原 因	調整のしかた（参照ページ）
布地を送らないのは	・押えの圧力が弱すぎるとき	・押え圧力を強くします（36ページ）
針が折れるのは	・針の取り付けが悪かったり、曲がった針を使用したとき ・布地を無理に引っぱったとき ・針止めねじがゆるんでいるとき	・針を正しく取り付けるか、または、正しい針と取りかえます（6ページ） ・手は布地が曲がらないよう導くだけ ・ねじをしっかりとしめます
糸が切れるのは	・糸の通し方がちがっているとき ・針が曲がっていたり、先端がつぶれているとき ・糸調子が強すぎるとき ・糸が必要以外のところからみついているとき ・針の取り付けかたがちがっているとき	・正しく通します（8～14ページ） ・正しい針と取りかえます（6ページ） ・調子をとります（17～19ページ） ・正しく通します（8～14ページ） ・正しく取り付けます（6ページ）
正しい縫い目が得られないのは	・針が曲がっていたり、先端がつぶれているとき ・針がしっかり取りつけられていないとき ・糸の通し方がちがっているとき ・糸の通す順序がちがっているとき ・ちがう針を使用したとき  ・押えの圧力が弱いとき ・糸調子が合っていないとき ・糸調子皿に糸が入っていないとき	・正しい針と取りかえます（6ページ） ・しっかり取りつけます（6ページ） ・正しく通します（8～14ページ） ・正しい順序で通します（各縫い方のページ参照） ・シンガーCat.No.2054 #10, #14を使用します ・押え圧力を強くします（36ページ） ・調子をとります（17～19ページ） ・正しく入れます
布地が縮むのは	・糸調子が強すぎるとき ・糸の通し方がちがっていたり、必要以外のところに糸がからみついているとき	・調子をとります（17～19ページ） ・正しく通します（8～14ページ）
布地が切れないのは	・上メスが解除されているとき ・下メスが摩耗しているとき ・かがり幅が3.5mm以下のとき	・正しい位置にします（22ページ） ・メスを交換します（21ページ） ・正しい位置にします（23ページ）
ミシンが回らないのは	・コンセントがはずれているとき	・コンセントを差し込みます

その他のむずかしい調整や部品の交換などはお買いあげの店にご相談ください。

## 28. 別売り部品

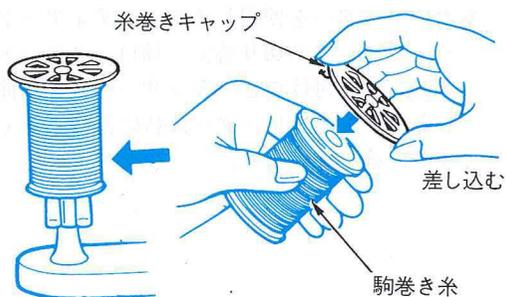
### (1) エッジガイド (P/N281465)

\* ルーパーカーバーに取りつけて、飾りステッチ、ピンタック縫い、まつり縫い等の布端のガイドにご使用ください。



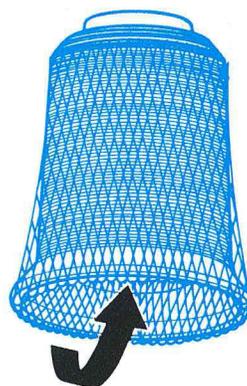
### (2) 糸巻きキャップ (P/N 546894)

\* 家庭用の駒巻き糸を使用するときに糸巻きキャップを使用します。



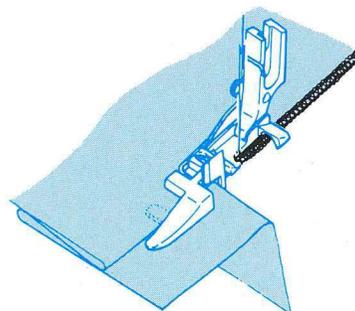
### (3) 糸巻きネット (P/N543131)

\* 化繊糸などの巻きがくずれやすい糸に使用します。  
糸巻きネットは下からセットしてご使用ください。



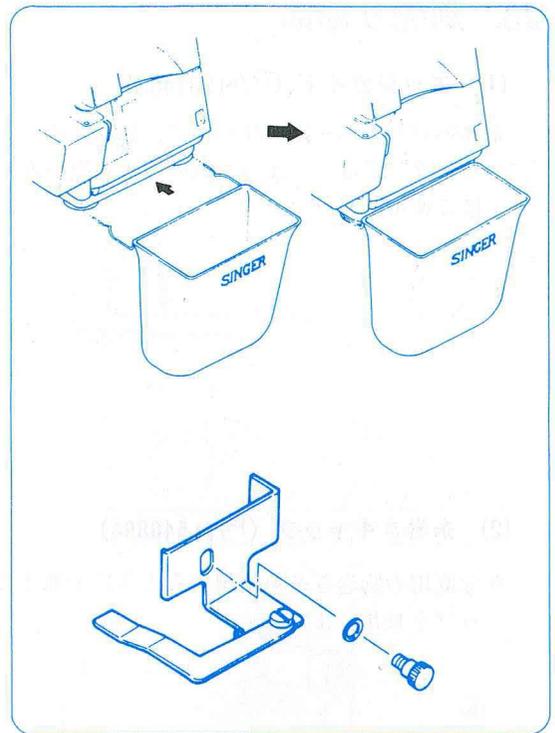
### (4) ブラインド押え (P/N376719)

\* ニット地の袖口、スカートの裾などのまつり縫いに使用すると、とても縫いやすい押えです。



#### (4) クリーンポケット (P/N 370292)

\* 右図のようにとりつけておきますと、切りくずが中に入りいつもきれいな環境で裁縫することができます。



#### (5) セパレーター (P/N 281464)

\* セパレーターを使用しますと、ティアードスカートやヨークの切り替え、袖口、スカートの裾等のレース付けなどのギャザーリングが簡単にできます。セパレーターは特に薄物のギャザーよせに適しています。

## 29. ミシンの仕様

項目	仕様
縫い速度	最大 1,300針/分
縫い目長さ(送り量)	1～5mm(標準:巻きロックF～2,普通縁かがり3)
差動比	0.8～2.0(レバー式)(差動付きミシン)
かがり幅	巻きロック1.5mm、普通縁かがり3.5～7.2mm(標準3.5mm)
針棒ストローク	27mm
押え上り量	5mm
使用針	シンガーCat.No.2054 #10、#14
使用糸数	4本
ミシンの大きさ	幅306mm×奥行237mm×高さ270mm
ミシンの重さ	
14U344B	5.5kg
14U354B	5.8kg



## 修理サービス要領

### ◎修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存して下さい。
2. 修理サービスは、無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談下さい。
3. 修理サービスについてお問合せやご不審のある場合は、別掲の各地区にある「お客様相談係」にお申し越し下さい。

### ◎修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できるよう体制を整えております。

### ◎無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談下さい。
  - イ. 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき
  - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき
  - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき
  - ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料の合計額となります。

140年以上もミシンを作り続けてきたシンガーは迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

**SINGER**  
シンガーミン

Form U6216 (692)  
Part No. 379371-001